

大学等名	山梨学院大学
プログラム名	ICTスキルとデータサイエンス修得プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

法学部、経営学部、スポーツ科学部

- ③ 修了要件

「ICTリテラシーA」2単位、「ICTリテラシーB」2単位、「データサイエンス」2単位の必修3科目、合計6単位を取得すること

必要最低単位数 6 単位 履修必須の有無 令和7年度までに履修必須とする計画

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス	2	○	○	○					

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス	2	○	○	○					

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス	2	○	○	○					

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス	2	○	○	○					
ICTリテラシーA	2	○		○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
ICTリテラシーB	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「データサイエンス」(第1回、第10回～第15回)
	1-6 ・AI最新技術の活用例「データサイエンス」(第1回、第10回～第15回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 ・オープンデータ、調査データ、実験データ「データサイエンス」(第2回、第3回、第10回～第15回)
	1-3 ・データ・AI活用領域の広がり「データサイエンス」(第2回、第3回、第10回～第15回)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 ・データ解析「データサイエンス」(第8回、第9回) ・特化型AIと汎用AI「データサイエンス」(第10回)
	1-5 ・サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「データサイエンス」(第10回～第15回)

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ELS、個人情報保護、忘れられる権利、データ倫理、データバイアス 「データサイエンス」(第2回) ・データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンス」(第10回～第15回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・匿名加工情報 「データサイエンス」(第2回) ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性 「データサイエンス」(第3回) ・パスワード、悪意ある情報搾取 「ICTリテラシーA」(第1回、第5回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 「ICTリテラシーA」(第5回)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)、代表値の性質の違い、データのばらつき、相関と因果(相関係数) 「ICTリテラシーB」(第14回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図) 「ICTリテラシーB」(第14回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和、平均)、データの並び替え 「ICTリテラシーB」(第15回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

ICTスキルと数理・データサイエンス・AIの基礎知識が同時に身につきます。グループ学習を通じて、協力して発表資料を作成することで数理・データサイエンス・AIを学ぶことの楽しさを体験し、将来に渡って学ぶ力が身につきます。

大学等名	山梨学院大学
プログラム名	ICTスキルとデータサイエンス修得プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

健康栄養学部

- ③ 修了要件
「情報処理演習Ⅰ」1単位、「情報処理演習Ⅱ」1単位、「データサイエンス」2単位の必修3科目、合計4単位を取得すること

必要最低単位数 4 単位 履修必須の有無 令和7年度までに履修必須とする計画

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス	2	○	○	○					

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス	2	○	○	○					

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス	2	○	○	○					

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス	2	○	○	○					
情報処理演習Ⅰ	1	○		○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報処理演習Ⅱ	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「データサイエンス」(第1回、第10回～第15回)
	1-6 ・AI最新技術の活用例「データサイエンス」(第1回、第10回～第15回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 ・オープンデータ、調査データ、実験データ「データサイエンス」(第2回、第3回、第10回～第15回)
	1-3 ・データ・AI活用領域の広がり「データサイエンス」(第2回、第3回、第10回～第15回)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 ・データ解析:クロス集計、回帰分析、ベイズ推論、アソシエーション分析、クラスタリング、決定木「データサイエンス」(第8回、第9回) ・特化型AIと汎用AI「データサイエンス」(第10回)
	1-5 ・サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「データサイエンス」(第10回～第15回)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ELS、個人情報保護、忘れられる権利、データ倫理、データバイアス 「データサイエンス」(第2回) ・データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンス」(第10回～第15回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・匿名加工情報 「データサイエンス」(第2回) ・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性 「データサイエンス」(第3回) ・暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取 「情報処理演習 I」(第7回、第8回)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・母集団と標本抽出(アンケート調査、全数調査) 「情報処理演習 II」(第9回) ・データの種類(量的変数、質的変数) 「情報処理演習 II」(第12回) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)、代表値の性質の違い、データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、相関と因果(相関係数) 「情報処理演習 II」(第13回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図) 「情報処理演習 II」(第11回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和、平均)、データの並び替え 「情報処理演習 II」(第13回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

ICTスキルと数理・データサイエンス・AIの基礎知識が同時に身につきます。グループ学習を通じて、協力して発表資料を作成することで数理・データサイエンス・AIを学ぶことの楽しさを体験し、将来に渡って学ぶ力が身につきます。

大学等名	山梨学院大学
プログラム名	ICTスキルとデータサイエンス修得プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 対象となる学部・学科名称 ② 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

国際リベラルアーツ学部

③ 修了要件

「Introduction to Computer Science」3単位、「Coding Bootcamp:Applied Probability and Statistics」1単位、「Statistics」3単位、「Machine Learning」3単位の10単位を取得すること

必要最低単位数 10 単位 履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
Introduction to Computer Science	3	○	○	○					
Machine Learning	3	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
Introduction to Computer Science	3	○	○	○					
Machine Learning	3	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
Introduction to Computer Science	3	○	○	○					
Machine Learning	3	○	○	○					

⑦ 「活用にあたっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
Introduction to Computer Science	3	○	○	○					
Machine Learning	3	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
Coding Bootcamp: Applied Probability and Statistics	1	○	○	○	○						
Statistics	3	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット Changes in society, Internet of Things 「Introduction to Computer Science」(第29回)(第30回) ・複数技術を組み合わせたAIサービス Changes in society 「Machine Learning」(第1回)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の活用例 Latest trends in data and AI utilization 「Introduction to Computer Science」(第29回)(第30回) Latest trends in data and AI utilization 「Machine Learning」(第1回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、データのオープン化 Introduction to Databases 「Introduction to Computer Science」(第29回) Data used in society/ AI utilization 「Machine Learning」(第1回)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり Areas of utilization of data and AI 「Introduction to Computer Science」(第29回)(第30回) Areas of utilization of data and AI 「Machine Learning」(第1回)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析 「Machine Learning」(第12回)～(第28回) 「Coding Bootcamp: Applied Probability and Statistics」(第5回)(第6回) 「Statistics」(第12回) ・特化型AIと汎用AI Technologies for data and AI utilization 「Introduction to Computer Science」(第29回)(第30回)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介 Sites of data and AI utilization 「Introduction to Computer Science」(第29回)(第30回) Sites of data and AI utilization 「Machine Learning」(第1回)

(4)活用に当たっての 様々な留意事項 (ELSI、個人情報、デー タ倫理、AI社会原則 等)を考慮し、情報セ キュリティや情報漏洩 等、データを守る上で の留意事項への理解 をする	3-1	・データ倫理、データバイアス Points to Note in Utilizing Data and AI 「Machine Learning」(第1回) (第2回)
	3-2	・情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性 Precautions for protecting data 「Introduction to Computer Science」(第25回)～(第28回)
(5)実データ・実課題 (学術データ等を含む) を用いた演習など、社 会での実例を題材とし て、「データを読む、説 明する、扱う」といった 数理・データサイエン ス・AIの基本的な活用 法に関するもの	2-1	・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)、代表値の性質の違い、 データのばらつき、相関と因果(相関係数) Read the data 「Coding Bootcamp: Applied Probability and Statistics」(第7回) (第8回) Read the data 「Statistics」(第2回)～(第4回)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図) Explain the data 「Coding Bootcamp: Applied Probability and Statistics」(第9回)～(第20回) Explain the data 「Statistics」(第20回)～(第30回)
	2-3	・データの集計(和、平均)、データの並び替え、ランキング、表形式のデータ(csv) 「Machine Learning」(第12回)～(第28回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

数理・データサイエンス・AIの基礎的な知識が身につきます。多様な学生がともに学ぶことで、数理・データサイエンス・AIについても多種多様な考え方を見つけることができます。

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和3 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度						令和3年度						令和2年度						令和元年度						平成30年度						平成29年度						履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数										
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性								
法学部	1,297	280	1,050	127			123			0			0			0			0			0			0			0			0			127	12%						
経営学部	1,432	320	1,140	195			167			178			154			0			0			0			0			0			0			373	33%						
健康栄養学部	165	40	180	47			45			0			0			0			0			0			0			0			0			47	26%						
国際リベラルアーツ学部	177	50	210	0			0			0			0			0			0			0			0			0			0			0	0%						
スポーツ科学部	837	170	730	83			73			0			0			0			0			0			0			0			0			83	11%						
合計	3,908	860	3,310	452	0	0	408	0	0	178	0	0	154	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	630	19%						

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

 センター長 成田 秀夫
 副センター長 倉澤 一孝(経営学部 副学部長)
 (ICTスキル部門)
 センター専任教員 教授 内藤 統也 (ICTスキル部門主任)
 センター専任教員 教授 金子 勝一
 センター専任教員 教授 清水 智
 センター専任教員 教授 原 敏
 他、非常勤2名

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	19%	令和5年度予定	42%	令和6年度予定	66%
令和7年度予定	88%	令和8年度予定	97%	収容定員(名)	3,310

具体的な計画

本学には「履修指定科目(所定の年次において、履修が義務付けられた科目)」という制度がある。この制度を利用する。令和5年度より、本教育プログラムを構成する「ICTリテラシーA」、「ICTリテラシーB」、「データサイエンス」を「履修指定科目」に設定する。健康栄養学部の「情報処理演習Ⅰ」、「情報処理演習Ⅱ」は、学部の「必修科目」であるため、学部の全員が受講する。国際リベラルアーツ学部では、現在、専門性の高い科目でプログラムが構成されているので、審査項目を全て網羅する初年次科目を令和7年度までに開講できるよう準備する。

令和5年度予定 41.8 % 内訳 (178+454+810)/3450
 令和6年度予定 65.5 % 内訳 (178+454+810+810)/3440
 令和7年度予定 87.8 % 内訳 (454+810+810+860)/3440
 令和8年度予定 97.1 % 内訳 (810+810+860+860)/3440

なお、過年度の定員変更に伴い、収容定員は、令和5年 3450名、令和6年以降 3440名と変化する。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

法学部、経営学部、健康栄養学部、スポーツ科学部に関しては令和5年度までに取組が済みであり、全員の履修が見込まれる。

国際リベラルアーツ学部については、未だ取組が十分であるとはいえない。そこで、学習・教育開発センター ICTスキル部門主任 内藤 統也と国際リベラルアーツ学部 カリキュラム委員 眞 正裕の間で準備に取り組み、進展状況は、学習・教育開発センター センター長 成田 秀夫に報告する体制をとる。具体的には、審査項目の全てを網羅する初年次科目「(仮名) Introduction to Data Science」を令和7年度までに開講する。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

法学部、経営学部、健康栄養学部、スポーツ科学部の「履修指定科目」は、履修登録時に事前登録されるため、入学者全員が履修登録済みとなる。健康栄養学部の「必修科目」は、卒業までに単位習得が必要な科目であることを新入生ガイダンスで周知し、その後のサポートも学部でしっかり行なっている。

加えて、新入生ガイダンス、前期に開講される本教育プログラムの必修科目内の時間を使って、パンフレット、履修ガイドを用いて本教育プログラムを周知する。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

まず、履修できるようなサポート体制について述べる。令和4年度は「履修指定科目」ではなかったため、各学部のカリキュラム委員と連携し、各学部の新生の必修科目等と時間割が重ならないよう打ち合わせをして、本教育プログラムの時間割を決めた。履修登録に当たっては、クラスを指定してクラス定員を超えないよう調整を行なった。

次に、修得できるようなサポート体制について述べる。履修者の多いクラスには、SA(Student Assistant)を配置して、多くの学生が修得できるよう配慮した。その結果、令和4年度には履修者454名に対して410名の修了者があり、修得率90.0%と高い修得率を得ている。さらに、令和5年度にはSAを配置するクラスを増量している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業内では、教員が理解が遅れている学生に声をかけ学習指導を行うよう心がけている。また、教員の目の届きにくい人数の多いクラスにはSAを配して、SAと協力して学習指導を行う。授業外には、いくつかの仕組みがある。

①LMSの「Q&A機能」 学生はいつでもLMS(Learning Management System)を使って教員に質問をできる。

②小テストの実施 本教育プログラムを構成する授業では毎回のように小テストを課し、学生の理解度を確認している。小テストの不振者には再テストや追加テストを実施している。

③コンピューター演習室の空き時間の解放 授業が行われていないコンピューター演習室は自由に使えるよう解放されており、学生は予習復習にコンピューターをらせる。

④資格試験の学内実施 本教育プログラムを構成している科目に関連した資格試験を、教員が主導して学内実施している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

学習・教育開発センター	
(責任者名) 成田 秀夫	(役職名) センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本教育プログラムは、令和3年度に試行的に経営学部のみを対象にスタートした。令和3年度の履修率は、経営学部の入学定員(300名)に対して59%であった。また、修得者の割合は87%であった。本教育プログラムは、3科目で構成されているので、その3科目のGPAの平均をとると、4が23%、3が27%、2が34%、1が16%、0が1%未満となっている。</p> <p>令和4年度には、本教育プログラムは、法学部、経営学部、健康栄養学部、国際リベラルアーツ学部、スポーツ科学部へと拡張された。</p> <p>法学部、経営学部、スポーツ科学部では、履修率は入学定員(合計770名)に対して53%である。法学部、スポーツ科学部では本教育プログラムに対する関心が低かったことが分かる。修得者の割合は89%であった。3科目のGPAの平均をとると、4が14%、3が35%、2が34%、1が16%、0が1%となっている。</p> <p>健康栄養学部、1年生全員の100%が本教育プログラムを受講している。修得者の割合は96%であった。3科目のGPAの平均をとると、4が46%、3が37%、2が15%、1が2%、0が0%となっている。健康栄養学部は、他の学部比べて学習意欲が高いことがわかる。</p> <p>国際リベラルアーツ学部では、教育プログラムは複数学年で開講されている科目で構成されており、また、すべての科目を履修した者はいない。1年生科目の「Introduction to Computer Science」に限れば、18%が履修をしており、その内の67%が単位修得している。</p>
学修成果	<p>令和4年度の学修成果をみると、法学部、経営学部、スポーツ科学部では、上記のように約半数がGPAの平均が3以上となっており、良好であることが分かる。また、本教育プログラムでは、複数教員で同1名称科目を受け持っており、成績分布から厳格に成績評価が行われていることが分かる。一方、同じ評価基準を当てはめると、学修意欲の高い学生が多い健康栄養学部では80%の学生が3以上になってしまうこと分かり、令和5年度以降の成績分布の学部間の平滑化が課題である。</p> <p>学修成果物として、法学部、経営学部、健康栄養学部、スポーツ科学部で開講している「データサイエンス」では、グループ学習でプレゼンテーション資料を成果物として作成している。さらに、作成した資料を使ったプレゼンテーションは、動画に録画する、ポスターを作成するなどして成果物として残り、クラスの全員が閲覧できる状態で一定期間公開している。クラスによっては、口頭発表する、ポスター発表も行っている。</p> <p>授業中に学生に書いてもらったグループ学習の感想を見ると、「他の班の発表を聞き、スライドの見やすさ、わかりやすい話し方、面白いテーマなど参考になることが多くあった。」、「この講義で得たAIの知識はこの講義を受けなければ知ることができなかったと思う。有意義であった。」、「AIの良い面と悪い面を理解できた。」、「AIをよく理解し、よりよく活用できるようにAIとうまく付き合うべきだと思った。」、「AIにできないことを考えて自分の将来を選択したい」、「データサイエンスを学び社会に関心を持つことができたので良かった。」といった内容のものが多くあり、ねらい通りの学習成果が得られている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本学の学生による授業アンケートでは、「この授業から知識・技能などを身につけることができた」を問う設問があり、「とても思う、そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない、まったくそう思わない」から選択をする。令和4年度の調査の結果をまとめる。</p> <p>「ICTリテラシーA」の10クラス、サンプル数300名の調査では、「とても思う、そう思う」と答えた学生の割合が、全体の約8割となっている。一方、「あまりそう思わない、そう思わない、まったくそう思わない」と否定的な回答をした学生の割合は、2%となっている。</p> <p>「ICTリテラシーB」の6クラス、サンプル数130名の調査では、「とても思う、そう思う」と答えた学生の割合が、全体の約9割となっている。一方、「あまりそう思わない、そう思わない、まったくそう思わない」と否定的な回答をした学生の割合は、6%となっている。</p> <p>「データサイエンス」の4クラス、サンプル数337名の調査では、「とても思う、そう思う」と答えた学生の割合が、全体の7割となっている。一方、「あまりそう思わない、そう思わない、まったくそう思わない」と否定的な回答をした学生の割合は、8%となっている。</p> <p>以上の結果から、学生の内容の理解度はまずまずと判断できる。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本学の学生による授業アンケートには、「後輩等他の学生への推奨度」を問う設問はない。そこで、「総合的にみてこの授業は有意義だった」を問う設問で推奨度を計る。学生は上記と同様に「とても思う、そう思う、ややそう思う、あまりそう思わない、そう思わない、まったくそう思わない」から選択をする。令和4年度の調査の結果をまとめる。</p> <p>「ICTリテラシーA」の10クラス、サンプル数300名の調査では、「とても思う、そう思う」と答えた学生の割合が、全体の約8割となっている。一方、「あまりそう思わない、そう思わない、まったくそう思わない」と否定的な回答をした学生の割合は、6%となっている。</p> <p>「ICTリテラシーB」の6クラス、サンプル数130名の調査では、「とても思う、そう思う」と答えた学生の割合が、全体の約9割となっている。一方、「あまりそう思わない、そう思わない、まったくそう思わない」と否定的な回答をした学生の割合は、5%となっている。</p> <p>「データサイエンス」の4クラス、サンプル数337名の調査では、「とても思う、そう思う」と答えた学生の割合が、全体の約8割となっている。一方、「あまりそう思わない、そう思わない、まったくそう思わない」と否定的な回答をした学生の割合は、7%となっている。</p> <p>以上の結果から、総合的に満足している学生が多く、後輩等他の学生への推奨度は高いと判断できる。</p>

<p>自己点検・評価の視点</p> <p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等</p> <p>法学部、経営学部、スポーツ科学部においては、令和4年度は、各学部の1年生の必修科目と重ならないように考慮して時間割を設定した。また、履修希望者がクラスの定員を超過しないよう、クラスを決めて、ガイダンスで周知した。さらに、本教育プログラムを学ぶことの重要性をガイダンスで周知した。しかし、本教育プログラムを構成する「ICTリテラシーA」、「ICTリテラシーB」、「データサイエンス」の3科目を全て履修した学生は入学定員の53%に止まった。令和5年度より、本学の「履修指定科目（所定の年次において、履修が義務付けられた科目）」制度を利用し、本教育プログラムを構成する3科目を「履修指定科目」に設定する。これにより令和8年度には履修率100%の達成が期待される。</p> <p>健康栄養学部では、本教育プログラムを構成する「情報処理演習Ⅰ」、「情報処理演習Ⅱ」が学部の「必修科目」であり、「データサイエンス」の履修率も100%であったことから、令和4年度には1年生の対象者全員が本教育プログラムを履修した。令和5年度は「データサイエンス」を「履修指定科目」とする。これにより、令和5年度以降も1年生の対象者全員が本教育プログラムを履修し、令和7年度には履修率100%の達成が期待される。</p> <p>国際リベラルアーツ学部では、本教育プログラムは1年生から3年生に渡る複数科目で構成されているため、履修が学生から見ると複雑である。したがって、1科目で審査項目の全てを網羅する初年次科目があることが望ましい。こうした科目の準備を令和5年度から進める。</p>
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学の教育プログラムは1年次科目を用いて令和3年より開始しており、まだ修了者で卒業生はいない。一方、令和3年度の修了生のうち3名と、令和4年度修了者のうち10名が、本教育プログラムに係る科目のSAとして、令和5年度に活躍している。</p> <p>また、インターンシップ等で企業で活動している学生について、令和5年度から調査を行う。</p> <p>本学全体の教育の質転換・質保証を目的とした教学マネジメントサイクルを運用する中で、毎年、本学教育活動について、産業界に加えて多様な業界で活動される実務家教員にもヒアリングを行い、カリキュラム改善活動に反映する仕組みを構築している。</p> <p>数理・データサイエンス・AI教育については、社会的なニーズの高まりとともに、上記ヒアリングを通じて、今後の要望や意見をいただくことも多く、適宜プログラム改善へ接続を行っている。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本教育プログラムの中核を担う科目「データサイエンス」では、グループ学習を取り入れている。全15回の授業のうち、10回は座学で教科書を使って基礎的な知識を学び、後半の5回で教科書で学んだ知識を活かして、「データサイエンス、データ、AIの活用事例」をグループ学習する。グループ学習では、グループごとにテーマを決めて、調べ学習をして、グループで1つのプレゼンテーション資料を作成する。その後、そのプレゼンテーション資料を用いて発表動画の録画、口頭発表、ポスター発表を行い、お互いの発表を見る機会を作っている。グループで協力してプレゼンテーション資料を作成することは、「学ぶ楽しさ」の理解につながっている。また、グループ内で議論することと他のグループの発表を聞くことは、自分ひとりでは気付かない様々な視点から「データサイエンス、データ、AIの活用事例」知るきっかけとなり、「学ぶことの意義」の理解につながっている。</p> <p>「ICTリテラシーA」、「ICTリテラシーB」、「情報処理演習Ⅰ」、「情報処理演習Ⅱ」では、実用的な課題を取り入れたり、e-Statで公開されているデータを用いることで、ICTスキルやデータを扱うことを身近に感じられるよう工夫をしている。こうした内容は、「学ぶことの意義」の理解につながっている。</p> <p>本教育プログラムの科目担当者は、本教育プログラムを通じて「データサイエンスの分野は卒業後もずっと学び続ける必要がある」ことを学生に伝えることを共通の意識として授業を行なっている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>本教育プログラムを構成する科目のうち、「ICTリテラシーA」、「ICTリテラシーB」は7名で、「データサイエンス」は4名の担当者が複数クラスを開講している。それぞれの科目で、シラバスを統一して、同一授業内容と同一成績評価で運営している。そのために、それぞれの科目のシラバス作成時には、常勤の科目担当者全員で会合を行なっている。また、授業期間中も「ICTリテラシーA」、「ICTリテラシーB」については3回、「データサイエンス」については2回、担当者全員での会合を開き、情報共有を行なって内容・水準の維持と向上を計っている。</p> <p>また、常勤の4名と非常勤の1名は、山梨大学が中心となり山梨県内の7大学で活動している「数理・データサイエンス・AI教育連携にかかる授業設計研究会」に参加している。この研究会を通じて情報交換して、担当者全員が、内容・水準を維持・向上と「分かりやすい」授業の開発、実行に努めている。</p> <p>令和4年度には、滋賀大学データサイエンス学部との共同執筆で「データサイエンス」の教科書を作成した。内容は、数理・データサイエンス・AIの基礎的な知識と、その活用事例で構成されている。活用事例は、本学の学部構成に合わせて活用分野を選んでいる。また、社会科学系の学部でも教科書として使えるよう、図表を多用して数式の使用を最小限にとどめる工夫をした。令和5年度は、本学の「データサイエンス」の授業で教科書として採用し、「分かりやすい」授業を行う</p> <p>教科書参考:「はじめてのデータサイエンス」学術図書出版社 2023/03 ISBN:978-4780611021</p>

02_(山梨学院大学)_シラバス

- ・ データサイエンス
- ・ ICTリテラシーA
- ・ ICTリテラシーB
- ・ 情報処理演習 I
- ・ 情報処理演習 II
- ・ Introduction to Computer Science
- ・ Machine Learning
 - ・ Statistics
- ・ Coding Bootcamp: Applied Probability and Statistics

学期	2022年度後期	ナンバリング	ICT103
科目名称	データサイエンス		
担当教員	内藤 統也		
開講学科	管理栄養学科		
科目区分		配当年次	1年
曜日時限	木曜3限	単位数	2単位
授業方法区分	対面	前提科目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを説明できる。 ・今のAIで出来ることと、出来ないことの判別ができる。 ・社会におけるデータやAIの活用事例を調査して、発表できる。 		
関連DP	DP1-②(考え抜く力)		
授業概要	<p>データサイエンスとは、意思決定をサポートするために大量のデータから法則・関連性を導き出すための手法を指すことが一般的ですが、企業活動をはじめ、現代のビジネスにおいて、このデータサイエンスの活用が必要不可欠なものになっています。</p> <p>一方、日本はAI人材の育成で世界から遅れを取っているといわれています。AI人材とは、データサイエンスの基礎的素養に身に付け、学修した知識・技能をもとに、AIを扱う際には人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAIの恩恵を享受できる人材のことです。</p> <p>この授業では、データサイエンスの基礎的素養に身に付け、AI人材を育成することを目的とします。</p> <p>授業では、以下の内容を扱います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で起きている変化 ・社会で活用されているデータ ・データ・AIの活用領域 ・データ・AI活用のための技術 ・データ・AI活用の現場 ・データ・AI活用の最新動向 <p>前半の授業は主に講義形式で行い、後半はグループ学習形式で行います。</p>		
アクティブ・ラーニング実施の有無	グループワーク/プレゼンテーション		

※授業実施方法は変更する可能性があります。

授業計画	
回数	内容
第1回	<p>現代社会におけるデータサイエンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスの役割 <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第2回	<p>現代社会におけるデータサイエンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスと情報倫理 <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第3回	<p>現代社会におけるデータサイエンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ分析のためのデータの取得と管理 <p>授業内容に関する小テスト（授業後） 1章の内容に関する課題レポート（授業後）</p>
第4回	<p>データ分析の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒストグラム・箱ひげ図・平均値と分散 <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>

第5回	<p>データ分析の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 散布図と相関係数 <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第6回	<p>データ分析の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 回帰直線 <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第7回	<p>データ分析の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ データ分析で注意する点 <p>授業内容に関する小テスト（授業後） 2章の内容に関する課題レポート（授業後）</p>
第8回	<p>データサイエンスの手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クロス集計 ・ 回帰分析 ・ ベイズ推論 <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第9回	<p>データサイエンスの手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アソシエーション分析 ・ クラスタリング ・ 決定木 <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第10回	<p>データサイエンスの手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニューラルネットワーク ・ 機械学習とAI <p>授業内容に関する小テスト（授業後） 3章の内容に関する課題レポート（授業後）</p>
第11回	<p>グループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループづくり ・ グループでのテーマ設定 <p>グループワークに関するワークシート提出（授業内）</p>
第12回	<p>グループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマに従った活用事例の調査とまとめ <p>グループワークに関するワークシート提出（授業内）</p>
第13回	<p>グループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査内容に関するプレゼンテーション資料の作成 <p>グループワークに関するワークシート提出（授業内） プレゼンテーション資料の提出（授業後）</p>
第14回	<p>グループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーション動画の作成と提出 <p>グループワークに関するワークシート提出（授業内） プレゼンテーション動画の提出（授業後）</p>

第15回	<p>成果発表とまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループのプレゼンテーションの閲覧とコメント ・まとめ <p>授業内容に関する小テストまたはワークシート提出（授業後）</p>			
ICTツール活用有無	<ul style="list-style-type: none"> ・クリッカーを使った双方向型授業を行います。 ・LMSを使った事前学習・事後学習を行います。 ・パワーポイント等を使ったプレゼンテーション作成を行います。 			
事前・事後学習の内容	<p>第1回から第10回まで、授業内容に関する小テストを出題します。予習と復習のために3時間が必要です。（合計30時間）</p> <p>第11回から第15回まで、グループワークを行います。授業への準備や振り返りのために2時間が必要です。（合計10時間）</p> <p>課題レポートを3回実施します。準備のために5時間が必要です。（合計15時間）</p> <p>プレゼンテーションの作成や掲載のために5時間が必要です。（合計5時間）</p>			
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講評はLMSで行います。 ・詳細の説明を希望する学生にはメール等にて対応します。 			
評価方法	評価割合		評価基準など	
授業内小テスト			30%	
レポート課題			30%	
授業内課題			15%	
プレゼンテーション			25%	
書名	著者	出版社	ISBN	備考
データサイエンス入門	竹村彰通他	学術図書出版社	978-4-7806-0730-7	テキスト（必ず購入すること）
参考資料・URL	<p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵と図でわかる データサイエンス ー難しい数式なしに考え方の基礎が学べる 上藤 一郎 著 技術評論社 ISBN: 978-4297121273 ・絵と図でわかる AIと社会 ー未来をひらく技術とのかかわり方 江間 有沙著 技術評論社 ISBN: 978-4-297-12130-3 			
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)				
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスやAIについてわかりやすい授業を行います。 			
特記事項	<p>後半のユニットでは、アクティブラーニングを取り入れたグループディスカッションやプレゼンテーションを行います。メンバーと協力しながら進めてください。</p> <p>【評価方法について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内小テストは、第1回から第10回までの授業内容にもとづいて出題します。 ・レポート課題は、テキストの各章ごとに1回ずつ計3回出題します。 ・授業内課題は、第3ユニットのグループワークで作成するワークシートを提出してもらいます。 ・プレゼンテーションは、パワーポイントのファイルと発表動画を提出してもらいます。 <p>なお、以下に該当する場合には、合格水準に達していても単位認定しないことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を5回以上欠席した場合 ・第3回の授業時点で指定されたテキストを購入しなかった場合 ・未提出のレポート課題がある場合 ・プレゼンテーションファイルを提出しなかった場合 ・小テストやレポート等の提出において不正行為を行なった場合や、不正行為に関わった場合 ・授業に関して教員の指示等に繰り返し従わなかった場合 			

学期	2022年度後期	ナンバリング	ICT101
科目名称	ICTリテラシーA		
担当教員	清水 智		
開講学科	法学科/経営学科/スポーツ科学科		
科目区分		配当年次	1年
曜日時限	水曜1限	単位数	2単位
授業方法区分	対面	前提科目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターの基礎的な技術について理解していること。 ・大学生活に必要な範囲で文書作成ソフトを使うことができる。 		
関連DP	DP1-②(考え抜く力)		
授業概要	<p>この授業では、大学での実習室PCの使い方とICTの基礎的な知識について学びます。また、コンピューターの文字入力法であるタイピングの技術を学びます。さらに、授業でのレポート作成や卒業論文の作成などで使う文書作成アプリケーションソフトの利用方法を学びます。</p> <p>この授業は、複数の教員が開講します。ガイダンスで指定されたクラスを受講するようにしてください。なお、授業内容や評価方法はクラス間で統一されています。</p>		
アクティブ・ラーニング実施の有無	実習・フィールドワーク		

※授業実施方法は変更する可能性があります。

授業計画	
回数	内容
第1回	<p>大学のPCの使い方 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習室PCのログイン・シャットダウン ・大学のPC特有の注意事項 (データを守る上での留意事項を含む) ・使用できるアプリケーションソフト ・LMSへのログイン、使い方 ・パスワードの変更の仕方 ・大学の電子メールの使い方 <p>授業内容に関する小テスト (授業後)</p>
第2回	<p>大学のPCの使い方 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子メールの送り方・受け取り方 ・電子メールの使い方 (CC、添付、署名など) ・電子メールのマナー (データを守る上での留意事項を含む) ・Microsoft 365 (Office 365) サービスの使い方 アプリのインストール ・プリンターの使い方 <p>大学の無線LANの使い方</p> <p>授業内容に関する小テスト (授業後)</p>
第3回	<p>Windowsの操作方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイル名と拡張子 ・ファイルやフォルダのアーカイブ (圧縮) <p>キーボードタイピング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タッチタイピングについて ・タイピング練習 <p>キーボードタイピング実習 (1回目)</p> <p>授業内容に関する小テスト (授業後)</p>
第4回	<p>コンピューターの仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターの構成 (ハードウェア、ソフトウェア) ・データの単位

	<p>インターネット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの仕組み ・インターネット上のアドレス ・無線LANと携帯電話回線との違い <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第5回	<p>インターネットの使い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブブラウザ ・ウェブサイト利用時の注意点 （データを守る上での留意事項を含む） ・インターネットを使った情報検索の方法 <p>IT関係の資格について</p> <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第6回	<p>※必ず教科書を用意し、この回以降、毎回持ってきてください。</p> <p><文書の管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文書内を移動する ・文書の書式を設定する <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第7回	<p><文書の作成と管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文書を保存する、共有する ・文書を検査する <p>キーボードタイピング実習（2回目）</p> <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第8回	<p><文字、段落、セクションの書式設定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字列や段落を挿入する ・文字列や段落の書式を設定する ・文書にセクションを作成する、設定する <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第9回	<p><表やリストの管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・表を作成する ・表を変更する ・リストを作成する、変更する <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第10回	<p><参考資料の作成と管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参照のための要素を作成する、管理する ・標準のための一覧を作成する、管理する <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第11回	<p><グラフィック要素の挿入と書式設定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図やテキストボックスを挿入する <p>キーボードタイピング実習（3回目）</p> <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第12回	<p><グラフィック要素の挿入と書式設定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図やテキストボックスを書式設定 ・グラフィック要素にテキストを追加する ・グラフィック要素を変更する <p>授業内容に関する小テスト（授業後）</p>
第13回	<p><文章の共同作業の管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを追加する、管理する

	・変更履歴を管理する			
	授業内容に関する小テスト（授業後）			
第14回	<p><授業のまとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価について ・キーボードタイピングテスト ・Word到達度確認テストの練習 			
第15回	<p><授業のまとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Word到達度確認テスト ・解説 			
ICTツール活用有無	授業内の資料、課題をLMSを利用して配布します。また、提出にも利用します。Microsoft 365（Office 365）とMicrosoft wordを使って演習を行います。LMSを利用した事前・事後学修を行います。			
事前・事後学習の内容	授業の予習、復習には十分な時間（4時間程度）を確保して下さい。特にテキストを見ずに操作できるように十分復習してください。授業内に復習の小テストを行います。			
フィードバックの方法	講評を希望する学生にはメール、LMSのいずれかで対応します。			
評価方法	評価割合	評価基準など		
各回の小テスト	50%			
レポート課題	50%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Word 365&2019 対策テキスト & 問題集	富士通エフ・オー・エム	FOM出版	978-4-86510-430-1	
参考資料・URL	<p>MOSとは https://mos.odyssey-com.co.jp/about/</p> <p>MOS Word 365&2019（一般レベル）試験概要 https://mos.odyssey-com.co.jp/outline/word365and2019.html</p>			
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)				
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	・受講生のITスキルに応じた適切な指導を行う。			
特記事項	<p><履修上の注意事項></p> <p>本クラスを受講者は既に入学している学生または第6回授業前に入学の見込みがある学生に限定されます。</p> <p>授業実施方法は第1回をオンライン、第2回～第5回をハイブリッド（オンラインと対面の併用）で行い、指定教科書を必要とする第6回以降は指定実習室（40-302）での対面のみの授業として進めます。</p> <p>第15回の「Word到達度確認テスト」を指定実習室で対面で受けられない場合は、単位認定されません。</p> <p><評価基準の詳細></p> <p>成績評価は、下記項目で合計100点満点として行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回の小テスト（50点） ・レポート課題（50点） <p>小テストは、各回4点満点で13回行います。レポート課題は、確認問題、キーボードタイピングテスト、到達度確認テストで総合的に評価します。また、原則として合計点が60点以上を合格としますが、点数に関わらず下記に該当する場合には、単位を認定しないことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定されたテキストを用意していない場合 ・不正行為を行ったり、それに関わった場合 ・到達度確認テストの結果が低い場合 ・授業内課題の提出状況が悪い場合 ・キーボードタイピングテストが合格基準に達していない場合 <p><欠席した場合></p> <p>本授業は、講義と演習を組み合わせた授業となります。欠席した場合には、授業で行ったことをシラバスで確認し、次の授業までに教科書を見て必ず自学習しておいて下さい。</p>			

<自宅での学習環境について>

新型コロナウイルスの感染拡大状況により授業がオンラインになることがあります。自宅でオンライン授業を受けられる環境、Microsoft Wordを操作できる環境を整えておきましょう。やむない場合は、補講での対応となります。

学期	2022年度後期	ナンバリング	ICT102
科目名称	ICTリテラシーB		
担当教員	佐藤 友香		
開講学科	法学科/経営学科/スポーツ科学科		
科目区分		配当年次	1年
曜日時限	月曜2限	単位数	2単位
授業方法区分	対面	前提科目	ICTリテラシーA
到達目標	①表計算ソフトの基本的な操作を行うことができる。 ②社会におけるデータ活用の重要性について説明できる。 ③表計算ソフトを用いて身の回りのデータを分析できる。		
関連DP	DP1-②(考え抜く力)		
授業概要	<p>情報化社会といわれる今日では、コンピューターは社会のあらゆる分野で使用されるようになっており、ビジネスの分野でも多くのコンピューターが導入されています。社会に出た場合には職務上でコンピューターを使用することが要求されます。また、いろいろなデータがコンピューターで処理されています。データ処理のアプリケーションソフトの1つに表計算ソフトがあります。この授業では、表計算ソフトの1つである「Excel」を使用して、ソフトの操作方法や表の作成やグラフの作成を学びます。最初は基本的な操作方法から始め、応用的な段階まで進んでいきます。</p> <p>また、現代社会では、ビジネス・仕事を離れた様々な場面においても、表計算ソフトを使用することで効率化が図れます。例を挙げると、町内会（マンションの管理組合）の予算管理、PTA・子ども会の活動、スポーツやダンス・音楽イベントの主催・実施、同窓会の開催における会員管理や会計処理などがあります。</p> <p>この授業は、複数の教員が別々の曜日・時限に開講します。ガイダンスでアナウンスされたクラスを受講するようにしてください。 なお、授業内容や評価方法はクラス間で統一されています。</p>		
アクティブ・ラーニング実施の有無	実習・フィールドワーク		

※授業実施方法は変更する可能性があります。

授業計画	
回数	内容
第1回	<ガイダンス> ・講義内容、授業の運営方法、予習・復習の方法の説明
第2回	<Excelの基本操作とワークシートやブックの管理> ・Excelの起動・終了、Excelの基本要素 ・Excelの画面構成 ・ブック内を移動する
第3回	<ワークシートやブックの管理> ・ワークシートやブックの書式を設定する ・オプションと表示をカスタマイズする
第4回	<ワークシートやブックの管理> ・共同作業のためにコンテンツを設定する ・ブックにデータをインポートする
第5回	<セルやセル範囲のデータの管理> ・シートのデータを操作する ・セルやセル範囲の書式を設定する（1）
第6回	<セルやセル範囲のデータの管理> ・セルやセル範囲の書式を設定する（2） ・名前付き範囲を定義する、参照する
第7回	<セルやセル範囲のデータの管理>

	・データを視覚的にまとめる			
第8回	<p><テーブルとテーブルのデータ管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーブルを作成する、書式設定する ・テーブルを変更する ・テーブルのデータをフィルターする、並べ換える 			
第9回	<p><表（テーブル）の作成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・表を作成する、管理する ・表のスタイルと設定オプションを管理する 			
第10回	<p><数式や関数を使用した演算の実行></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参照を追加する ・データを計算する、加工する 			
第11回	<p><数式や関数を使用した演算の実行></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字列を変更する、書式設定する 			
第12回	<p><グラフの管理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフを作成する ・グラフを変更する ・グラフを書式設定する 			
第13回	<p><操作技能のまとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・操作技能到達度テスト 			
第14回	<p><基本統計量の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本統計量について知る ・身の回りのデータや活用例について考える 			
第15回	<p><データの分析とまとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのデータを分析する ・データ活用・分析到達度テスト（レポート） 			
ICTツール活用有無	LMS（UNIVERSAL PASSPORT）を利用した事前・事後学修を行っている。			
事前・事後学習の内容	授業の予習、復習には十分な時間（4時間程度）を確保して下さい。特にテキストを見ずに操作できるように十分復習してください。授業内で復習のための小テストや課題提出を行います。			
フィードバックの方法	講評はLMSのUNIVERSAL PASSPORT（通称、UNIPA）上で行います。詳細の説明を希望する学生にはメールまたはUNIPAにて対応します。			
評価方法	評価割合	評価基準など		
授業内小テストまたは授業課題	30%			
操作技能到達度テスト	30%			
データ活用・分析到達度テスト（レポート）	40%			
書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Excel 365&2019 対策テキスト &問題集	富士通エフ・オー・エム	FOM出版	978-4-86510-429-5	
参考資料・URL	<p>マイクロソフトオフィススペシャリストとは https://mos.odyssey-com.co.jp/about/</p> <p>マイクロソフトオフィススペシャリスト「Excel 365&2019（一般レベル）」 https://mos.odyssey-com.co.jp/outline/excel365and2019.html</p>			

実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)	山梨大学 大学教育センター他でデータサイエンス関連科目の授業及び補助経験がある。 民間シンクタンクでデータを用いたレポートやリサーチ、月次指標の作成などの経験も有している。
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	数式を利用し、身近なデータの基本統計量を求められるようにする。
特記事項	講義と演習を組み合わせた授業となります。欠席した場合には、次の授業までに当日の授業内容について自身で補習し理解を深めておいてください。

学期	2022年度前期	ナンバリング	YGU_GE1acl040
科目名称	情報処理演習 I		
担当教員	清水 智		
開講学科	管理栄養学科		
科目区分		配当年次	1年
曜日時限	金曜2限	単位数	1単位
授業方法区分	対面	前提科目	
到達目標	<p>1) コンピューターによる情報処理の概念が理解できる（管理栄養学科DP①把握する力に関連）。</p> <p>2) コンピューターとネットワークの基本的な特性と利用法について理解できる（管理栄養学科DP①把握する力に関連）。</p> <p>3) 主要なアプリケーションソフトの操作技能と利用法について理解できる（管理栄養学科DP①把握する力に関連）。</p> <p>4) コンピューターおよびネットワークを活用して、管理栄養士が必要とする情報の収集・分析・選別・構成・発信などの方法について修得する（管理栄養学科DP②考え抜く力と関連）。</p>		
関連DP	DP1-②(考え抜く力)		
授業概要	<p>授業形態：対面型を基本とします。状況によってはオンライン型（Zoom, UNIVERSAL PASSPORTなど）に切り替えることもあります。</p> <p>本授業は実習機器運用管理などのために着席位置の指定を行います。</p> <p>この科目の細目は管理栄養学科（総合基礎教育科目）演習です。単位区分は必修です。他学科履修はできません。</p> <p>ICTが日常用語になりつつある今日、私たちは、家庭、社会、ビジネスなど様々な場面でたくさんの情報を収集し活用する必要性が高まっています。</p> <p>それに伴い、私たちは自らコンピューターを利用し処理できる技能・能力が必要とされています。</p> <p>本講義では、管理栄養士に必要な情報処理の手段としてのコンピューターやネットワークの活用能力をコンピューター実習を通じて身に付けることを目標としています。</p> <p>具体的には、情報化社会と情報処理の意義、コンピューターとネットワークの基礎知識、コンピューターとネットワークの基本操作、主要なアプリケーションソフトの利用法、および栄養や保健に関する情報処理（情報の収集・分析・選別・構成・発信など）の方法についてコンピューター実習を中心とする演習を主体的に行いながら理解を深めます。</p> <p>また授業においては、必要に応じてLMS（UNIVERSAL PASSPORT）を用いて課題の提示や提出など事前・事後学修を行います。</p>		
アクティブ・ラーニング実施の有無	実習・フィールドワーク		

※授業実施方法は変更する可能性があります。

授業計画	
回数	内容
第1回	<p>ガイダンス 本授業の概要と方針、進め方や受講における心構えなどについて説明をします。 情報化社会と情報処理について</p> <p>授業時に出題された課題を指定された期限までに処理するとともに、 授業で採り上げた要点や用語について探究するなど復習を行ない、 同時に授業で紹介する次回授業の要点について資料やwebの情報を調べるなど予習を行なってください。 次回以降も同様です。</p>
第2回	情報処理のための情報学習環境の利用実習
第3回	windowsの基本操作と日本語入力実習
第4回	ワードプロセッシング実習(1)ビジネス文書の構成と基本的な編集機能を学ぶ
第5回	ワードプロセッシング実習(2)いろいろな文書の例と発展的な編集機能を学ぶ
第6回	ワードプロセッシング実習(3)図形や画像素材などを導入した各種文書の作成
第7回	インターネットの仕組みと電子メールに関する実習
第8回	WWWからの情報収集とホームページの基礎に関する実習
第9回	表計算実習(1)計算式を使った基本的な表計算の方法
第10回	表計算実習(2)関数を用いた基本的な表計算の方法

第11回	表計算実習(3)表の編集機能と相対・絶対参照を導入した処理	
第12回	表計算実習(4)実用的な各種関数の使い方	
第13回	プレゼンテーションソフトの活用実習(1)プレゼンテーションソフトの基本と基礎的なスライドの制作	
第14回	プレゼンテーションソフトの活用実習(2)プレゼンテーションソフトにおける様々な素材を導入したスライド制作	
第15回	Officeアプリケーションの連携処理に関する実習	
ICTツール活用有無	LMSを利用した事前・事後学修を行っている。	
事前・事後学習の内容	授業計画の各回で演習した内容についてテキストを通読するとともに、授業時配布資料がある場合には、資料に目を通し、整理しておいてください。さらに授業時に出題した課題のコンピューター処理を行い、理解を深めてください。予復習が大切ですので、1回の授業あたり4時間程度の予復習をおこなってから授業に臨んでください。	
フィードバックの方法	提出された授業時課題や期末総合課題の模範解答あるいは改善点などについて、必要に応じコメントを提供します。希望する学生にはメール、LMS、あるいは直接、研究室で対応します。	
評価方法	評価割合	評価基準など
授業課題		50%
期末総合課題		50%
参考資料・URL	テキストは授業の最初に指示します。 必要に応じてプリントや関連するファイルを配布します。 参考書は授業の進展に合わせて適宜紹介します。	
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)		
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	授業アンケートでは授業の進み方のスピードが速いとの声もあったので、説明の速さや授業の展開に配慮・注意したいと思います。 また、引き続き、演習を行う皆さんの理解がより一層深まるよう、一人ひとりの状況を確認しながら、適切な助言（アドバイス）や質疑応答の機会を設けるなどの配慮をして授業を進めていきます。	
特記事項	授業時間以外にもコンピューター実習室が開放されているときに、積極的、主体的にコンピューターを利用し、より一層理解を深めるように努めてください。 また授業時に提出された演習問題は自己解決（解答）できるよう努力をしてください。もし、どうしても分からないときには躊躇なく質問をしてください。	

学期	2022年度後期	ナンバリング	YGU_GE1acl050
科目名称	情報処理演習 II		
担当教員	齋藤 沙織		
開講学科	管理栄養学科		
科目区分		配当年次	1年
曜日時限	火曜4限	単位数	1単位
授業方法区分	対面	前提科目	
到達目標	1.管理栄養士業務に必要な情報を理解する。 2.栄養価計算ソフトの操作方法を修得する。 3.コンピューターを用いたアンケート集計方法を修得し、データの整理、提示ができる。 4.健康・栄養に関するデータの基礎的な統計学的処理を理解する。		
関連DP	DP1-①(把握する力)		
授業概要	<p>【授業概要】 管理栄養士は健康や栄養に関する情報を協働者と共有し、同時に一般の人々にウェブやデジタル・プレゼンテーションを通じて広く伝達する能力が求められている。管理栄養士業務でよく用いられる、ワードやエクセルによる表作成と数式・関数等を用いた表計算、各種調査実施後の集計処理、献立作成ソフトによる栄養価の算出を行う。</p> <p>【他分野・他の科目とのつながり】 この科目は情報処理演習Ⅰで学んだことが基礎となる。この科目で学ぶことは、調理実習科目（基礎調理実習Ⅱ）、給食系実習科目（給食運営実習、給食経営管理実習）、ライフステージと栄養管理の実践（栄養教育論、公衆栄養学）および疾病と栄養管理の実践（臨床栄養学）に関連し、さらに統合実習（臨地実習）につながる。</p>		
アクティブ・ラーニング実施の有無	グループワーク		

※授業実施方法は変更する可能性があります。

授業計画	
回数	内容
第1回	講義・実習： ガイダンス アカデミックライティングについて
第2回	講義・実習： 管理栄養士としての献立表記の基本 レシピ表記の基本
第3回	講義・実習： 栄養計算ソフトの基本 スマート栄養計算の使い方
第4回	講義・実習： 栄養計算ソフトの活用① 献立の入力
第5回	実習： 栄養計算ソフトの活用② 栄養価の計算
第6回	実習： 栄養計算ソフトの活用③ 栄養価の計算
第7回	講義・実習： 栄養情報について 栄養教育教材（リーフレット）の作成
第8回	講義・実習： 栄養管理業務に必要な帳票の作成 作業指示書、作業工程表、発注書について

第9回	講義・実習： アンケート集計の手法 アンケート集計とデータ化	
第10回	講義・実習： 事例を用いたアンケート集計① アンケート回答の入力	
第11回	講義・実習： 事例を用いたアンケート集計② アンケート回答の集計 グラフ作成	
第12回	講義・実習： データ分析① データの種類と基礎知識	
第13回	講義・実習： データ分析② 基本統計量、処理関数、分析ツール	
第14回	講義・実習： 情報処理演習Ⅱのまとめ	
第15回	実習： 授業内小テスト（確認テスト）	
ICTツール活用有無	本授業ではLMSを活用した授業を行う	
事前・事後学習の内容	情報処理演習Ⅰで学んだエクセルの統計関数やグラフ作成について復習しておいてください。 配布資料の理解とノートの整理を中心に予復習（2時間以上）を励行して下さい。 授業時に指定した課題を期日内に完結させるため、自主的な表計算作業が必要です。 授業の詳細や資料の提示は、授業中またはLMSを通じて示します。 わからないこと、もう一度説明してほしいことはその都度教員に確認してください。	
フィードバックの方法	提出されたレポートに対し、よりよいレポートとするためのコメントを示します。 評価に関する質問については、メール、研究室、LMSで対応します。	
評価方法	評価割合	評価基準など
課題		50%
確認テスト		50%
参考資料・URL	<p>【参考資料】 必要に応じ、適宜プリントや関連するファイルを配布します。</p> <p>【参考書】 情報処理演習Ⅰで使用したテキスト</p>	
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)	この科目の担当者は管理栄養士免許を有します。	
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	実技を取り入れた具体的で詳しい説明が好評のため、継続します。 学生の理解度に合わせて、授業の進捗や方法を調整し、柔軟に対応します。 栄養価計算の基礎技術および調査集計の基礎技術を習得するために、それぞれの演習について解説を充実させていきます。	
特記事項	専門職として習得すべき技術の基礎を網羅しています。欠席した授業の演習は自習し、課題を提出してください。 なお、授業内容については、学生の理解度や状況等に合わせ、若干変更する可能性があります。	

開講学科	国際リベラルアーツ学科		
学期	2022年度前期	開講年度	毎年
ナンバリング	DATA100		
科目名称	Introduction to Computer Science		
前提科目	None		
担当教員	PARIDA Abhishek	配当年次	1年
科目区分	データ・サイエンス	単位数	3単位
授業形態	講義	授業方法区分	ハイブリッド（対面/同時双方向併用）

注記 1: 授業実施方法は変更する可能性があります。

注記 2: クラスの規模や施設の収容人数によっては、コースの登録を希望するすべての学生に対応できない場合があります。

授業概要	Computer Science is a vast field, encompassing various topics ranging from organization and architectures designs, operating systems, programming languages, data structures, software engineering techniques, communication and networking, and many others. The field is growing faster than any other profession and offers many opportunities provided one thoroughly adopts the current developments. Moreover, knowledge about various technical concepts develops critical thinking and helps understand technology profoundly. The course is intended for all students and articulates various essential topics in Computer Science and Information Technology. It is specially crafted for students in Liberal Arts and describes all the vital topics required to understand the newly emerging field of Data Science and more. After covering the essentials, the course orients students towards data used in society and several areas of Artificial Intelligence in the present scenario.
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	Based on the course evaluation, particularly students' performance, I have revised the syllabus. In my observation, the topics related to Discrete Mathematics (DM) can be diluted and studied in some restricted doses. DM introduced in the course will mainly involve Mathematical Logic, Boolean Algebra, and Graph Theory Algorithms. Few topics related to modern concepts like Blockchain, NFTs, and others are included.
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)	The contents of this course are specially designed for Liberal Arts students. And with my graduation in Computer Engineering, I intend to deliver the students with a basic foundation on the theory behind Computer Science and Information Technology.
到達目標	The prime objective behind the course is to give the students familiarity with the trends in technology; the more they know the inner working (theory and concepts) of it, the better is their chance to demystify them. It will help them to develop critical and cognitive thinking. By the end of the course, students would have enough idea to pursue other intermediate and advanced topics from the field. The lectures should be seen as a complement to the newly launched Data Science curriculum and provide any cheese-hole gaps if any.
関連DP	DP1 (See Student Handbook, P3)/DP2 (See Student Handbook, P3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	PBL(課題解決型学習)
ICTツール活用有無	Not applicable

事前・事後学習の内容	Following is the expected study hours with other related parameters: 1) Course Type: Lectures 2) Credits: 3 3) Total Class Hours: 37.5 4) Prescribed Total Study Hours: 135 (= 45*3; 45 hours per credit) 5) Preparation and review hours = 135 - 37.5 = 97.5	
フィードバックの方法	Following will be the method of feedback regarding student's assignments: 1) Correcting and returning the assignments and final exam on UNIPA. 2) Other means like Microsoft forms would be used for quizzes having multiple-choice options. 3) Students can reach me during office hours with a prior request. To have a better grade, be regular in the study, active and attentive in the class, do a revision of classwork regularly, and participate in-class quizzes.	
評価基準		
評価方法	評価割合	評価内容
Homework Assignments	40%	Take home exercises; questions will be from

		specific topics
Quizzes	30%	Questions will be from specific topics only
Final Exam	30%	Take home exercises from entire syllabus
テキスト・参考書	Handouts/ Notes will be provided to students. These notes would be indicative, and students may refer to materials online to suffice their understanding. However, they are encouraged to take proper class notes to refer to them later.	
参考資料・URL	It will be shared in the class (if any).	
特記事項 - 剽窃	Plagiarism is the dishonest presentation of others' work as if it were one's own. Duplicate submission is also treated as plagiarism. Depending on the nature of plagiarism, one may fail the assignment or the course. The repeated act of plagiarism will be reported to the University, which may apply additional penalties.	
特記事項 - その他	<p>Classes will be conducted primarily as interactive lectures. Students are expected to participate in class discussions in an inquisitive, thoughtful, and constructive manner. There is no one textbook to follow as this course's scope is comprehensive. A handout would be provided at the end of each lecture. However, students are encouraged to take class notes; this will drastically increase their ability to retain the information. These will be all theory classes, and there will be two lectures per week of 75 minutes each. Students should not expect to pass the course if they regularly fail to attend the classes. There will be a final exam for this course. The problems will be comparable in difficulty to in-class quizzes.</p> <p>A tentative class schedule is provided; the contents and the prescribed duration are merely indicative and may change depending on the overall class requirements and response.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) All classes are theory-based, each of 75 minutes; there will be two classes per week with a total of 30 lectures. 2) There can be extra lectures if required; this is rare, but students must be prepared to take them to complete the syllabus. 3) Quizzes will be conducted with prior notice, testing students' understanding of a particular topic. 4) All the quiz timings are tentative but would occur in the prescribed vicinity. 	

注記 3: 授業計画は変更になる場合があります。

授業計画	
回数	内容
第1回	<ol style="list-style-type: none"> 1) Opening remarks and relevance of studying Computers fundamentals 2) Overview of a Computer system 3) History/ Evolution of Computers; How do Computers Work- Input-Process-Output model
第2回	<ol style="list-style-type: none"> 1) Fundamentals of Computer Organization- (John) von Neumann Architecture. Types of Computer System 2) Classification of Computer Language
第3回	<ol style="list-style-type: none"> 1) Classification of Computer Language 2) Classification of software 3) Operating system basics: Introduction and objectives (functions) 4) Types of Operating System, Process, and Threads
第4回	<ol style="list-style-type: none"> 1) Types of Operating System, Process, and Threads.
第5回	Quiz - 1 (Computer Organization and Architecture)
第6回	1) Quiz 1 solution discussion
第7回	<ol style="list-style-type: none"> 1) Number Systems: Positional versus non-positional numbering systems 2) Binary, Octal, Decimal, Hexadecimal
第8回	<ol style="list-style-type: none"> 1) Number System Conversion; Signed and unsigned numbers 2) The language of 0s and 1s: Representation of data in Computer memory 3) Binary arithmetic 4) Representing floating-point numbers
第9回	5) Quiz 2 (Number System)
第10回	1) Quiz 2 solution discussion

第11回	<p>1) Introduction to Discrete Mathematics and Boolean Algebra: Set Theory: Operations, Power sets, Sequences, Cardinality; Mathematical Logic1) Solving problems related to Boolean Algebra</p> <p>2) Practice problems on Discrete Mathematics (interactive session)</p>
第12回	<p>1) More practice problems on Discrete Mathematics (interactive session)</p>
第13回	<p>1) Quiz 3 (Discrete Mathematics)</p>
第14回	<p>1) Quiz 3 solution discussion</p>
第15回	<p>1) Introduction to Programming Fundamentals: An overview of different programming languages</p> <p>2) Fundamentals of programming: flowchart and pseudo-code</p> <p>3) Compiled versus interpreted language</p>
第16回	<p>1) Flowchart and pseudo-code (continued)</p> <p>2) Variables, arrays, strings, hash maps, conditionals</p> <p>3) Loops</p>
第17回	<p>1) Practice problems on programming fundamentals</p>
第18回	<p>1) Quiz 4 (Programming fundamentals)</p>
第19回	<p>1) Fundamental Data Structure: arrays, lists, hashmaps, and others</p>
第20回	<p>1) Searching and sorting algorithms</p>
第21回	<p>1) Theory of Computation: Finite State Machines</p>
第22回	<p>1) Theory of Computation: Finite State Machines, Exercises</p>
第23回	<p>1) Theory of Computation: Finite State Machines, More exercises</p>
第24回	<p>Quiz 5 (Theory of Computation)</p>
第25回	<p>1) Web fundamentals: How does the internet work</p> <p>2) Overview of front end and backend development</p> <p>3) APIs, Monoliths versus Microservices</p>
第26回	<p>1) Overview of Computer Networking</p>
第27回	<p>1) Overview of Computer Networking (continued)</p>
第28回	<p>1) Introduction to Databases</p>
第29回	<p>1) Introduction to Blockchain Technology, NFTs, Cryptocurrency and Distributed Ledger</p>
第30回	<p>1) Pavement to Data Science: Overview of some selected topics in Artificial Intelligence and Machine Learning: Internet of Things; Pavement to the Data Science Curriculum- Natural Language Processing, Computer Vision</p>

開講学科	国際レベルルーツ学科		
学期	2022年度前期	開講年度	毎年
ナンバリング	DATA350		
科目名称	Machine Learning		
前提科目	DATA160 Coding Bootcamp: Python DATA260 Coding Bootcamp: Applied Probability (can be taken simultaneously) QREA/PSCI/ECON203 Statistics		
担当教員	PARIDA Abhishek	配当年次	3年
科目区分	データ・サイエンス	単位数	3単位
授業形態	講義	授業方法区分	対面/ハイブリッド (対面/同時双方向併用)

注記 1: 授業実施方法は変更する可能性があります。

注記 2: クラスの規模や施設の収容人数によっては、コースの登録を希望するすべての学生に対応できない場合があります。

授業概要	This course introduces various Machine Learning algorithms (theory) and their implementations using Sklearn in Python (practical programming). It provides essential training on data literacy (reading, handling, and explaining the data) and discusses the latest trends in utilizing Data Science and Artificial Intelligence. Each section is followed by several guided case studies analyzing real-world data sets and practice problems.
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	None
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)	None
到達目標	A student taking this course would be considered a prospective Data Engineer who would already be familiarized with statistical notions and clearly understand the schemes needed to reach this point. This module's key takeaway is the rigorous theory sections that build the concepts and the hands-on learning that can be readily used in a Data Science professional's everyday work once mastered. Students would develop the skills needed to master mathematics for Data Science and Artificial Intelligence.
関連DP	DP1 (See Student Handbook, P3)/DP2 (See Student Handbook, P3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	PBL(課題解決型学習)
ICTツール活用有無	None

事前・事後学習の内容	Following is the expected study hours with other related parameters: 1) Course Type: Lectures 2) Credits: 3 3) Total Class Hours: 37.5 4) Prescribed Total Study Hours: 135 (= 45*3; 45 hours per credit) 5) Preparation and review hours = 135 - 37.5 = 97.5		
フィードバックの方法	Following will be the method of feedback regarding student's assignments: 1) Correcting and returning the assignments and final exam on UNIPA. 2) Other means like Microsoft forms would be used for quizzes having multiple-choice options. 3) Students can reach me during office hours with a prior request. To have a better grade, be regular in the study, active and attentive in the class, do a revision of classwork regularly, and participate in-class quizzes.		
評価基準			
評価方法	評価割合	評価内容	
Homework Assignments	40%	Take home exercises; questions will be from specific topics	
Quizzes	30%	Questions will be from specific topics only	
Final Exam	30%	Take home exercises from entire syllabus	

テキスト・参考書	Students are strongly encouraged to have a book even though lecture slides will be provided to students. Aurélien Géron- Hands-On Machine Learning with Scikit-Learn and TensorFlow: Concepts, Tools, and Techniques to Build Intelligent Systems (O'Reilly) Andreas C. Mueller, Sarah Guido- Introduction to Machine Learning with Python: A Guide for Data Scientists
参考資料・URL	It will be shared in the class (if any).
特記事項 - 剽窃	Plagiarism is the dishonest presentation of others' work as if it were one's own. Duplicate submission is also treated as plagiarism. Depending on the nature of plagiarism, one may fail the assignment or the course. The repeated act of plagiarism will be reported to the University, which may apply additional penalties.
特記事項 - その他	Classes will be conducted primarily as interactive lectures. Students are expected to participate in class discussions in an inquisitive, thoughtful, and constructive manner. There is no one textbook to follow as this course's scope is comprehensive. A handout would be provided at the end of each lecture. However, students are encouraged to take class notes; this will drastically increase their ability to retain the information. These will be all theory classes, and there will be two lectures per week of 75 minutes each. Students should not expect to pass the course if they regularly fail to attend the classes. There will be a final exam for this course. The problems will be comparable in difficulty to in-class quizzes. A tentative class schedule is provided; the contents and the prescribed duration are merely indicative and may change depending on the overall class requirements and response. 1) All classes are theory-based, each of 75 minutes; there will be two classes per week with a total of 30 lectures. 2) There can be extra lectures if required; this is rare, but students must be prepared to take them to complete the syllabus. 3) Quizzes will be conducted with prior notice, testing students' understanding of a particular topic. 4) All the quiz timings are tentative but would occur in the prescribed vicinity.

注記 3: 授業計画は変更になる場合があります。

授業計画	
回数	内容
第1回	Overview of the course: 1) What is Artificial Intelligence, Machine Learning, Deep Learning, and Data Science? 2) Supervised versus Unsupervised learning 3) Regression versus Classification problems 4) Unsupervised Machine Learning
第2回	1) Data cleaning with Pandas: Take care of missing data, encode categorical data 2) Introduction to sklearn, feature scaling, train-test split 3) Regression models: Simple Linear Regression
第3回	1) Multiple Linear regression 2) Polynomial regression
第4回	1) Logistic Regression
第5回	1) Case studies using Python's sklearn library
第6回	1) Evaluating Regression Models 2) Evaluating Classification Models
第7回	1) Support Vector Machine Regressor
第8回	1) Support Vector Machine Classifier
第9回	1) Quiz 1
第10回	1) Lasso Regression 2) Ridge Regression
第11回	1) K-Nearest Neighbour Classifier
第12回	1) Decision Tree 2) Random Forest

第13回	1) Ensemble Algorithms 2) Case studies
第14回	1) Discussion
第15回	1) Quiz 2
第16回	1) Quiz 2 solution discussion
第17回	1) Clustering Algorithms: K- Means Clustering, Hierarchical Clustering
第18回	1) Clustering case study
第19回	1) Dimensionality Reduction: Principal Component Analysis, Linear Discriminant Analysis
第20回	1) Dimensionality Reduction case study
第21回	1) Quiz 3
第22回	1) Quiz 3 solution discussion
第23回	Model Selection: 1) K - fold cross-validation 2) Grid search
第24回	1) X-G Boost
第25回	1) Case study
第26回	1) Quiz 4
第27回	1) Introduction to Natural Language Processing
第28回	1) Natural Language Processing (continued)
第29回	1) Quiz 5
第30回	1) Quiz 5 solution discussion

開講学科	国際リベラルアーツ学科		
学期	2022年度後期	開講年度	毎年
ナンバリング	QREA/PSCI/ECON203		
科目名称	Statistics		
前提科目	None		
担当教員	JHINGAN Sanjay	配当年次	2年
科目区分	数的推理・自然科学	単位数	3単位
授業形態	講義	授業方法区分	対面

注記 1: 授業実施方法は変更する可能性があります。

注記 2: クラスの規模や施設の収容人数によっては、コースの登録を希望するすべての学生に対応できない場合があります。

授業概要	<p>Cap (registrant capacity): 25 students</p> <p>Statistics is the branch of mathematics that studies the collection, analysis, and interpretation of data and it is widely used across all quantitative disciplines.</p> <p>This course will introduce the students to statistical methods, reasoning and evaluation used in investigations in a wide range of fields. The course will cover the following topics: (i) Methods of data collection, graphical and numerical displays to understand the data; (ii) Statistics with R, (iii) Probability, (iv) Discrete and continuous distributions; (v) Confidence intervals; (vi) Significance tests; (vii) Linear regression. The course may also include a short introduction to the R programming language with examples and assignments involving writing simple codes in R. Small adjustments to the program can take place during the course.</p>
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	Based on student feedback from previous offering of this course there will be regular in-class quizzes. This will help student understand better their learning and over all progress.
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)	Not applicable.
到達目標	<p>Proficient students will be able to:</p> <p>(i) Produce convincing oral and written statistical arguments in a variety of applied settings.</p> <p>(ii) Acquire basic knowledge of R programming language;</p> <p>(iii) Choose and use a variety of statistical techniques for: producing data surveys, experiments observational studies simulations, analyzing and modeling data (graphics, probability, distributions, error analysis);</p> <p>(iv) Drawing conclusions from data (confidence intervals, significance tests);</p> <p>(v) Communicate statistical results effectively.</p> <p>The emphasis of the course will be on developing independent, critical thinking and quantitative reasoning skills.</p>
関連DP	DP1 (See Student Handbook, P3) / DP2 (See Student Handbook, P3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	PBL(課題解決型学習) / プレゼンテーション
ICTツール活用有無	UNIPA (LMS system), Zoom, white-boarding, Office 365. Laptop/Desktop, R and RStudio.

事前・事後学習の内容	It is important to work each day, especially before and after the class. Plan to spend 8 hours per week for this course.		
フィードバックの方法	UNIPA, and Office 365 will be used for regular feedback to quizzes. Student can use office hours for discussion.		
評価基準			
評価方法	評価割合	評価内容	
In-class quizzes	90%	Nine quizzes will be conducted during the course.	
Written essay	5%	See grading rubric for details.	
Presentation	5%	See grading rubric for details.	
テキスト・参考書	J. T. McClave, P. G. Benson, T. Sincich, Statistics for Business and Economics (13th edition), Pearson.		

参考資料・URL	There are several good books on statistics which can be used. Introductory Statistics, Barbara Illowsky and Susan Dean, (available for free download at: https://openstax.org/details/books/introductory-statistics)
特記事項 - 剽窃	Plagiarism is the dishonest presentation of the work of others as if it were one's own. Duplicate submission is also treated as plagiarism. Depending on nature of plagiarism you may fail the assignment or the course. Repeated act of plagiarism will be reported to the University which may apply additional penalties.
特記事項 - その他	This class will be conducted primarily as an interactive lecture. Students are expected to participate in class discussions in an inquisitive, thoughtful, and constructive manner. We will follow the textbook reasonably closely and students should review the suggested study materials before joining the class. To have a better grade be regular in the course, be active and attentive in the class, do revision of classwork on a regular basis, and participate in class quizzes. Students will have a choice between a creative project that interprets the essence of a statistical idea and a problem-solving project that uses statistical techniques from the course to solve a problem that has not been considered in class. Project can be chosen freely based on student's field of interest. Students are invited and encouraged to discuss all phases of the project with the instructor and among each other.

注記 3: 授業計画は変更になる場合があります。

授業計画	
回数	内容
第1回	Lecture 1 The science of statistics, Fundamental elements.
第2回	Lecture 2 Types of data, Sampling.
第3回	Lecture 3 Critical thinking with statistics. In-class quiz.
第4回	Lecture 4 Describing Qualitative Data, Graphical description.
第5回	Lecture 5 Measures of central tendency.
第6回	Lecture 6 Variability.
第7回	Lecture 7 Critical thinking: Distorting truth with descriptive techniques. In-class quiz.
第8回	Lecture 8 An introduction to Statistics with R. Basics
第9回	Lecture 9 An introduction to Statistics with R. Statistics, Random numbers.
第10回	Lecture 10

	An introduction to Statistics with R. Descriptive statistics with R
第11回	Lecture 11 Sample space and Probability, Probability Rules.
第12回	Lecture 12 Mutually exclusive events, Conditional Probability, Independent events.
第13回	Lecture 13 Bayesian rule. In-class quiz.
第14回	Lecture 14 Discrete probability distributions. Binomial Distribution.
第15回	Lecture 15 Discrete probability distributions. Poisson distribution.
第16回	Lecture 16 Discrete probability distributions. In-class quiz.
第17回	Lecture 17 Continuous probability distributions. Uniform distribution.
第18回	Lecture 18 Continuous probability distributions. Normal Distribution.
第19回	Lecture 19 Continuous probability distributions. In-class quiz.
第20回	Lecture 20 Sampling distributions. Unbiasedness and minimum variance.
第21回	Lecture 21 Sampling distributions. Large number hypothesis, Central Limit theorem.
第22回	Lecture 22 Sampling distributions. in-class quiz.
第23回	Lecture 23 Inference based on a single sample - confidence interval. Estimating the target parameter.
第24回	Lecture 24 Inference based on a single sample - confidence interval. Confidence interval for a population mean: Normal (z) statistics
第25回	Lecture 25 Inference based on a single sample - confidence interval. In-class quiz.
第26回	Lecture 26

	Inference based on a single sample - Hypothesis testing. Formulating hypothesis, significance levels, test of hypothesis.
第27回	Lecture 27 Inference based on a single sample - Hypothesis testing. Formulating hypothesis, significance levels, test of hypothesis. In-class quiz
第28回	Lecture 28 Simple linear regression. Probabilistic models.
第29回	Lecture 29 Simple linear regression. Fitting a model: least square approach
第30回	Lecture 30 Simple linear regression. In-class quiz.

開講学科	国際リベラルアーツ学科		
学期	2022年度前期	開講年度	毎年
ナンバリング	DATA260		
科目名称	Coding Bootcamp: Applied Probability and Statistics		
前提科目	DATA250 Mathematics for Data Science (can be done concurrently)		
担当教員	PARIDA Abhishek	配当年次	2年
科目区分	データ・サイエンス	単位数	1単位
授業形態	演習	授業方法区分	対面／ハイブリッド（対面/同時双方向併用）

注記 1: 授業実施方法は変更する可能性があります。

注記 2: クラスの規模や施設の収容人数によっては、コースの登録を希望するすべての学生に対応できない場合があります。

授業概要	A coding boot camp is an activity-oriented training session designed to prepare students with practical problem-solving skills; the boot camp is spread across ten days, each covering a module. A module consists of specific Python exercises/ questions for the students to practice. Completing each exercise will give them a better understanding of Mathematical concepts and their Python implementation. The hands-on session covers essential permutation, Combination, Probability, and Statistics concepts. And provides necessary training on data literacy (reading, handling, and explaining the data) and motivates the latest trends in utilizing Data Science and Artificial Intelligence.
前年度の授業を踏まえた今年度の授業	None
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要)	None
到達目標	Python is an extensive topic, and each student has a different learning curve, so we offer a Bootcamp to fulfil their programming needs. A coding boot camp is an activity-oriented training session designed to prepare students with practical problem-solving sessions. The concepts practiced in this boot camp are of utmost importance and help make better business decisions from data.
関連DP	DP1 (See Student Handbook, P3)／DP2 (See Student Handbook, P3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	PBL(課題解決型学習) / 実習・フィールドワーク
ICTツール活用有無	None

事前・事後学習の内容	Following is the expected study hours with other related parameters: 1) Course Type: Workshop 2) Credits: 1 3) Total Class Hours: 25 4) Prescribed Total Study Hours: 45 (= 45*1; 45 hours per credit) 5) Preparation and review hours = 45 - 25 = 20		
フィードバックの方法	The classes are to be conducted over a period of 10 weeks with one class of 2 periods per week. Students are notified to bring their laptops to work on the programming exercises. They should not expect to pass the course if they regularly fail to attend the boot camp. Students are invited and encouraged to discuss with the instructor and each other. There is no final exam; however, students must complete the assignments on schedule.		
評価基準			
評価方法	評価割合	評価内容	
Assignment exercises	100%		
テキスト・参考書	Students are strongly encouraged to have a book even though lecture slides will be provided to students. 1) Amit Saha- Doing Math with Python: Use Programming to Explore Algebra, Statistics, Calculus, and More! 2) Peter Farrell et al.- The Statistics and Calculus with Python Workshop: A comprehensive introduction to mathematics in Python for Artificial Intelligence applications		
参考資料・URL	It will be shared in the class (if any).		
特記事項 - 剽窃	Plagiarism is the dishonest presentation of others' work as if it were one's own. Duplicate submission is also treated as plagiarism. Depending on the nature of plagiarism, one may fail the assignment or the course. The repeated act of plagiarism will		

	be reported to the University, which may apply additional penalties.
特記事項 - その他	These boot camps are intensive programs that offer students coding exercises to reinforce their programming concepts. Students are expected to be fully committed and go through rigorous problem-solving sessions. The BootCamp is held once every week for ten weeks straight; every day will have specific tasks to cover. Refer to the class schedule for expected topics.

注記 3: 授業計画は変更になる場合があります。

授業計画	
回数	内容
第1回	DAY 1: 1) Basic Arithmetic and word problems 2) Word problems on various Probability distributions
第2回	DAY 1: 1) Basic Arithmetic and word problems 2) Word problems on various Probability distributions
第3回	DAY 2: Optimization problems using Calculus
第4回	DAY 2: Optimization problems using Calculus
第5回	DAY 3: 1) Joint and Conditional Probability 2) Bayes theorem
第6回	DAY 3: 1) Joint and Conditional Probability 2) Bayes theorem
第7回	DAY 4: Descriptive Statistics: 1) Measures of Central tendency and dispersion 2) Definitions: Population, Sample, Mean, Median, Mode, Percentiles, Quartiles, Inter-Quartile Range
第8回	DAY 4: Descriptive Statistics: 1) Measures of Central tendency and dispersion 2) Definitions: Population, Sample, Mean, Median, Mode, Percentiles, Quartiles, Inter-Quartile Range
第9回	DAY 5: Exploratory Data Analysis
第10回	DAY 5: Exploratory Data Analysis
第11回	DAY 6: Exploratory Data Analysis
第12回	DAY 6: Exploratory Data Analysis
第13回	DAY 7: Inferential Statistics 1) Sampling, Gaussian Distribution, Standard Normal Distribution 2) Hypothesis testing: z-score, t-score, 1-tail, 2-tail tests
第14回	DAY 7: Inferential Statistics 1) Sampling, Gaussian Distribution, Standard Normal Distribution 2) Hypothesis testing: z-score, t-score, 1-tail, 2-tail tests
第15回	DAY 8: Inferential Statistics 1) Sampling, Gaussian Distribution, Standard Normal Distribution 2) Hypothesis testing: z-score, t-score, 1-tail, 2-tail tests
第16回	DAY 8: Inferential Statistics 1) Sampling, Gaussian Distribution, Standard Normal Distribution 2) Hypothesis testing: z-score, t-score, 1-tail, 2-tail tests
第17回	DAY 9: Correlation and Regression

第18回	DAY 9: Correlation and Regression
第19回	DAY 10: Correlation and Regression
第20回	DAY 10: Correlation and Regression

03_(山梨学院大学)_全学部等が開講 されていることがわかる資料

- ・ 2022年度教育課程表(全学部)

区分・部門	年次・科目	第1年次				第2年次				第3年次				第4年次				履修条件	履修方法				
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位								
総合基礎教育科目 32	総合基礎教育科目	<ICTスキル>																選択必修	32単位を修得 ★のついた科目は、1年次に履修することが義務づけられた科目（履修指定科目）です。				
		★ICTリテラシーA ② ICTリテラシーB ② 情報社会の権利と倫理 ② ICTと情報社会 ② データサイエンス ② 資格情報技術 ②																					
		<言語スキル>																					
		★言語技術Ⅰ ② ★言語技術Ⅱ ② アクティブ・リーディングⅠ ② アクティブ・ライティングⅠ ② アクティブ・リーディングⅡ ② アクティブ・ライティングⅡ ② ★基礎演習Ⅰ ① ★基礎演習Ⅱ ①																					
		<ヒューマンスキル>																					
		学びと社会のデザインⅠ ② 学びと社会のデザインⅡA ② 学びと社会のデザインⅡB ② ウェルビーイングⅠ ② ウェルビーイングⅡ ② ビア・サポート論 ② ピア・サポート実践 ②																					
		<キャリア形成支援>																					
		ワークルール論：働くための基礎知識 ② ファイナシヤル・リテラシー ② キャリアデザイン入門 ② キャリア形成論 ② キャリアデザイン基礎 ② キャリアデザイン発展 ② 実践キャリア論 ② ビジネス・コミュニケーションⅠ ② ビジネス・コミュニケーションⅡ ② スポーツとキャリア形成 ②																					
		産業と職業の研究 ② セルフブランディング ② 女性とキャリア形成 ② グローバル人材の形成 ② 海外キャリア探訪A ② インターンシップ ②																					
		<国際>																					
		異文化コミュニケーションA ② 異文化コミュニケーションB ② 国際コミュニケーションⅠ ② 中国文化交流A(休講) ② 中国文化交流B(休講) ② 日本文化交流A ② 日本文化交流B ② 国際文化交流A ② 国際文化交流B ② 海外文化研修A ④ 海外文化研修B ④																					
		<国際(英語)>																					
		〔前期学期科目〕 〔後期学期科目〕 〔前期科目〕 〔後期科目〕 コミュニケーション基礎英語A ② コミュニケーション基礎英語B ② 語学留学Ⅰ(休講) ① 語学留学Ⅱ(休講) ① コミュニケーション初級英語A ② コミュニケーション初級英語B ② 総合英語Ⅰ ② 総合英語Ⅱ ② 資格英語(TOEIC)ⅠA ① 資格英語(TOEIC)ⅠB ①																					
		<国際(日本語)>																					
		〔学期制科目〕 日本語Ⅰ ② (前期・後期それぞれに開講) ※外国人留学生として入学した学生は、日本語Ⅰ・Ⅱ必修 日本語Ⅱ ② (前期・後期それぞれに開講)																					
		〔前期学期科目〕 〔後期学期科目〕 実用日本語ⅠA ② 実用日本語ⅠB ② 実用日本語ⅡA ② 実用日本語ⅡB ②																					
		〔学期制科目〕 日本語特講Ⅰ ② (前期・後期それぞれに開講) 日本語特講Ⅱ ② (前期・後期それぞれに開講)																					
		〔前期科目〕 〔後期科目〕 アカデミック日本語ⅠA ② アカデミック日本語ⅠB ② アカデミック日本語ⅡA ② アカデミック日本語ⅡB ② キャリア日本語ⅠA ② キャリア日本語ⅠB ② キャリア日本語ⅡA ② キャリア日本語ⅡB ②																					
		日本語文法 ① (前期・後期それぞれに開講) 日本語コミュニケーション ① (前期・後期それぞれに開講) 日本語語彙 ① (前期・後期それぞれに開講)																					
		<国際(中国語)>																					
		〔前期学期科目〕 〔後期学期科目〕 〔前期学期科目〕 〔後期学期科目〕 入門中国語 ② 基礎中国語 ② 中級中国語(前半) ② 中級中国語(後半) ②																					
		<スポーツと健康>																					
		スポーツと健康(バスケットボール) ① スポーツと健康(軽スポーツⅠ) ① スポーツと健康(バレーボール) ① スポーツと健康(軽スポーツⅡ) ① スポーツと健康(バドミントン) ① スポーツと健康(トレーニング実践) ① スポーツと健康(柔道) ①																					
		競技スポーツ実践A ① 競技スポーツ実践B ① 競技スポーツ実践C ① 競技スポーツ実践D ① 競技スポーツ実践E ① 競技スポーツ実践F ① スポーツ経営学 ② トレーニング論 ② スポーツと法 ② スポーツ指導論 ② スポーツ心理学 ② スポーツ科学 ② コーチング基礎 ② スポーツ社会学 ②																					
		<人文・社会・自然科学>																					
		クオリティ・オブ・ライフの探究 ② 国際エロロジーの探究 ② 葡萄栽培とワイン醸造 ② 文学Ⅰ ② 古代学Ⅰ ② 文学Ⅱ ② 古代学Ⅱ ② 音楽と文化Ⅰ ② 文化人類学Ⅰ ② 音楽と文化Ⅱ ② 文化人類学Ⅱ ② 考古学Ⅰ ② ジェンダー論Ⅰ ② 考古学Ⅱ ② ジェンダー論Ⅱ ② 哲学Ⅰ ② 論理学Ⅰ ② 哲学Ⅱ ② 論理学Ⅱ ② 歴史学Ⅰ ② 倫理学Ⅰ ② 歴史学Ⅱ ② 倫理学Ⅱ ② 宗教と人間Ⅰ ② 心理学Ⅰ ② 宗教と人間Ⅱ ② 心理学Ⅱ ② 学校と子どもⅠ ② 食生活と健康 ② 学校と子どもⅡ ② 日本の法と文化 ② 青年と社会 ② 生活世界の探究 ② 人文地理Ⅰ ② 社会学Ⅰ(休講) ② 人文地理Ⅱ ② 社会学Ⅱ ② 現代中国の政治 ② 経済学Ⅰ ② 現代中国の社会・経済 ② 経済学Ⅱ ② 日本の経済と社会 ② 中国の歴史・文化 ② 法学 ② 日本国憲法 ② 生物と環境Ⅰ ② 自然の探究Ⅰ ② 生物と環境Ⅱ ② 自然の探究Ⅱ ② 数学Ⅰ ② 人間と科学Ⅰ ② 数学Ⅱ ② 人間と科学Ⅱ ② 科学史 ②																					
		専門教育科目 68 92	専門教育科目	〔1年次配当科目〕				〔2年次配当科目〕				〔3・4年次配当科目〕								選択必修	68単位以上を修得 4年次において、2科目・4単位以上を修得しなければならない。		
				〔前期科目〕 〔後期科目〕 法と政治入門A ② 法と政治入門B ② 憲法入門 ② 憲法Ⅰ ② 民法入門A ② 民法入門B ② 政治学概論Ⅰ ② 政治学概論Ⅱ ② 日本政治社会論Ⅰ ② 日本政治社会論Ⅱ ② 日本のビジネス ② 近代ヨーロッパの社会 公務員の仕事 不動産取引と法Ⅰ ② アジア共同体論 ②				〔前期科目〕 〔後期科目〕 憲法Ⅱ ② 憲法Ⅲ ② 民法ⅠA ② 民法ⅠB ② 民法ⅡA ② 民法ⅡB ② 民法ⅢA ② 民法ⅢB ② 民法ⅣA ② 民法ⅣB ② 刑法入門 ② 刑法Ⅰ ② 企業法入門 ② 企業法Ⅰ ② 企業法Ⅳ ② 法哲学入門 ② 刑事手続法入門 ② 民事手続法入門 ②				〔前期科目〕 〔後期科目〕 刑法Ⅱ ② 刑法Ⅲ ② 企業法Ⅱ ② 企業法Ⅲ ② 刑事訴訟法Ⅰ(捜査手続) ② 刑事訴訟法Ⅱ(公判手続) ② 民事手続法Ⅰ ② 民事手続法Ⅱ ② 労働法A ② 労働法B ② 国際法Ⅰ ② 国際法Ⅱ ② 企業法と法Ⅰ ② 企業法と法Ⅱ ② 金融法Ⅰ ② 金融法Ⅱ ② 環境法A ② 環境法B ② 教育法A ② 教育法B ② 国際私法A ② 国際私法B ② 少年法 ② 自治体法 ② 知的財産法 ② 国際貿易と法 ② 経済法 ② 倒産法 ② 国際公共政策A ② 国際公共政策B ② 行政学Ⅰ ② 行政学Ⅱ ② 経済政策Ⅰ ② 経済政策Ⅱ ② 国際経済Ⅰ ② 国際経済Ⅱ ② 社会調査(休講) ② 生命倫理と法 ② 国際文化研究Ⅰ ② 国際文化研究Ⅱ ② データ活用Ⅰ(休講) ② 多文化共生Ⅰ ② 心理学概論 ② 社会心理学(休講) ② 財政政策と金融政策 ② 国際関係論(概論)Ⅰ ② 国際関係論(概論)Ⅱ ② ビジネスエコノミクス ② 国際地域研究Ⅰ ② 警察の研究 ② 国際関係史Ⅰ(休講) ② 地域政治論(休講) ② 警察政策論 ② 地域課題実践研究 ② 国際地域研究Ⅱ ②											
				〔前期・後期科目〕 現代社会とビジネス ②				〔前期・後期科目〕 犯罪政策A ② 犯罪政策B ② 日本法制史A ② 日本法制史B ② 行政法Ⅰ ② 行政法Ⅱ ② 中国法A ② 中国法B ② 財政学A ② 財政学B ② 外交史A ② 外交史B ② 日本政治史A ② 日本政治史B ② 自治体行政学Ⅰ ② 自治体行政学Ⅱ ② 不動産取引と法Ⅱ ② 比較政治 ② 政治過程論Ⅰ ② 政治過程論Ⅱ ② 国際政治Ⅰ ② 国際政治Ⅱ ② データ活用Ⅱ(休講) ② 社会学概論(休講) ② 心理学概論 ② 社会心理学(休講) ② 国際関係論(概論)Ⅰ ② 国際関係論(概論)Ⅱ ② 国際地域研究Ⅰ ② 警察の研究 ② 地域政治論(休講) ② 警察政策論 ② 地域課題実践研究 ② 国際地域研究Ⅱ ②				〔前期科目〕 〔後期科目〕 民法Ⅲ ② 民法Ⅳ ② 刑事訴訟法Ⅰ(捜査手続) ② 刑事訴訟法Ⅱ(公判手続) ② 民事手続法Ⅰ ② 民事手続法Ⅱ ② 労働法A ② 労働法B ② 国際法Ⅰ ② 国際法Ⅱ ② 企業法と法Ⅰ ② 企業法と法Ⅱ ② 金融法Ⅰ ② 金融法Ⅱ ② 環境法A ② 環境法B ② 教育法A ② 教育法B ② 国際私法A ② 国際私法B ② 少年法 ② 自治体法 ② 知的財産法 ② 国際貿易と法 ② 経済法 ② 倒産法 ② 国際公共政策A ② 国際公共政策B ② 行政学Ⅰ ② 行政学Ⅱ ② 経済政策Ⅰ ② 経済政策Ⅱ ② 国際経済Ⅰ ② 国際経済Ⅱ ② 社会調査(休講) ② 生命倫理と法 ② 国際文化研究Ⅰ ② 国際文化研究Ⅱ ② データ活用Ⅰ(休講) ② 多文化共生Ⅰ ② 心理学概論 ② 社会心理学(休講) ② 財政政策と金融政策 ② 国際関係論(概論)Ⅰ ② 国際関係論(概論)Ⅱ ② ビジネスエコノミクス ② 国際地域研究Ⅰ ② 警察の研究 ② 国際関係史Ⅰ(休講) ② 地域政治論(休講) ② 警察政策論 ② 地域課題実践研究 ② 国際地域研究Ⅱ ②											
				〔前期・後期科目〕 マクロ経済学 ② ミクロ経済学 ②				〔前期科目〕 〔後期科目〕 演習Ⅰ ② 演習Ⅱ ②				〔前期科目〕 〔後期科目〕 演習Ⅲ ② 演習Ⅳ ② 演習Ⅴ ② 演習Ⅵ(卒業研究を含む) ②											
		共通選択枠 24				総合基礎教育科目、専門科目の中から24単位を修得(他学科等で修得した専門科目24単位までを含めることができる)(教育職員免許取得を要件として、教職課程履修者は「教職専門科目」16単位までを含めることができる)				〔通年科目〕 外国史 ④ 日本史 ④				〔前期科目〕 〔後期科目〕 外国史 ② 経済学 ② 〔通年科目〕 社会学 ④ 哲学 ④ 地理学 ④ 宗教学 ④ 社会科・公民科教育法 ④ 社会科教育法 ④						選択必修	24単位を修得		
		教職専門科目				〔前期科目〕 〔後期科目〕 教職概論 ② 教育課程論 ② 教育心理学(中・高) ② 教育社会学(中・高) ② 特別活動論 ② 教育方法論(中・高) ② 生徒指導・教育相談 ② 進路指導論 ② 教育におけるICT活用 ① 特別支援教育概論 ①				〔前期科目〕 〔後期科目〕 学校と教育の歴史 ② 道徳教育指導論(中) ② 総合的な学習の時間の指導法 ① 介護実務体験実習(事前事後指導を含む) ②				〔前期・集中科目(教育実習)〕 〔後期科目〕 教育実習研修 ② 教職実践演習(中・高) ② 教育実習Ⅰ ② 教育実習Ⅱ ①									

【注意事項】
①グレーの網掛けは2022年度休講科目です。休講科目は、科目名のうしろに“休講”が記入されています。

年次		第1年次				第2年次				第3年次				第4年次				履修条件	履修方法	
区分・部門	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位				
総合基礎教育科目 32	<ICTスキル>																	選択必修	32単位を修得 ★のついた科目は、1年次に履修することが義務づけられた科目（履修指定科目）です。	
	★ICTリテラシーA		②	ICTリテラシーB		②	情報社会の権利と倫理		②	ICTと情報社会		②								
	データサイエンス		②	プレゼンテーション技法		②	資格情報技術		②											
	<言語スキル>																			
	★言語技術I		②	★言語技術II		②														
	アクティブ・リーディングI		②	アクティブ・ライティングI		②	アクティブ・リーディングII		②	アクティブ・ライティングII		②	アクティブ・リーディングIII		②	アクティブ・ライティングIII				②
	<ヒューマンスキル>																			
	学びと社会のデザインI		②	学びと社会のデザインII A				②	学びと社会のデザインII B				②							
	ウェルビーイングI		②	ウェルビーイングII		②	ピア・サポート論		②	ピア・サポート実践		②								
	<キャリア形成支援>																			
	ワークルール論：働くための基礎知識		②																	
	ファイナンス・リテラシー		②																	
	キャリアデザイン入門		②	キャリア形成論		②	キャリアデザイン基礎		②	キャリアデザイン発展		②	実践キャリア論		②					
	産業と職業の研究		②					ビジネス・コミュニケーションI		②	ビジネス・コミュニケーションII		②							
	グローバル人材の形成		②					セルフブランディング		②	女性とキャリア形成		②	スポーツとキャリア形成		②				
								海外キャリア探訪A		②										
								インターンシップ		②										
	<国際>																			
	異文化コミュニケーションA		②	異文化コミュニケーションB				②												
	★国際共修入門I		②	★国際共修入門II		②	中国文化交流A(休講)		②	中国文化交流B(休講)		②								
	国際コミュニケーションI		②	(前期・後期それぞれに開講)				日本文化交流A		②	日本文化交流B		②							
								国際文化交流A		②	国際文化交流B		②							
								海外文化研修A		④	海外文化研修B		④							
	<国際(英語)>																			
	[前期学期制科目]			[後期学期制科目]				[前期科目]				[前期集中科目]								
	コミュニケーション基礎英語A		②	コミュニケーション基礎英語B		②	語学留学I(休講)		①	語学留学II(休講)		①								
	コミュニケーション初級英語A		②	コミュニケーション初級英語B				②												
	総合英語I		②	総合英語II				②												
	(前期科目)			(後期科目)																
	資格英語(TOEIC)IA		①	資格英語(TOEIC)IB		①														
	<国際(日本語)>																			
	[学期制科目]																			
日本語I		②	(前期・後期それぞれに開講)				※外国人留学生として入学した学生は、日本語I・II必修													
日本語II		②	(前期・後期それぞれに開講)																	
[前期学期制科目]			[後期学期制科目]																	
実用日本語IA		②	実用日本語IB		②															
実用日本語IIA		②	実用日本語IIB				②													
<学術科目>																				
日本語特講I		②	(前期・後期それぞれに開講)																	
日本語特講II		②	(前期・後期それぞれに開講)																	
[前期科目]			[後期科目]				アカデミック日本語IA		②	アカデミック日本語IB		②	アカデミック日本語IIA		②	アカデミック日本語IIB		②		
キャリア日本語IA		②	キャリア日本語IB		②	キャリア日本語IIA		②	キャリア日本語IIB		②									
日本語文法		①	(前期・後期それぞれに開講)																	
日本語コミュニケーション		①	(前期・後期それぞれに開講)																	
日本語語彙		①	(前期・後期それぞれに開講)																	
<国際(中国語)>																				
[前期学期制科目]			[後期学期制科目]				[前期学期制科目]			[後期学期制科目]										
入門中国語		②	基礎中国語		②	中級中国語(前半)		②	中級中国語(後半)		②									
<スポーツと健康>																				
スポーツと健康(バスケットボール)		①	スポーツと健康(軽スポーツI)		①															
スポーツと健康(バレーボール)		①	スポーツと健康(軽スポーツII)		①															
スポーツと健康(バドミントン)		①	スポーツと健康(トレーニング実践)		①															
スポーツと健康(柔道)		①																		
競技スポーツ実践A		①	競技スポーツ実践B		①	競技スポーツ実践C		①	競技スポーツ実践D		①	競技スポーツ実践E		①	競技スポーツ実践F		①			
スポーツ経営学		②	トレーニング論		②	スポーツと法		②	スポーツ指導論		②									
スポーツ心理学		②					スポーツ科学		②	コーチング基礎		②								
							スポーツ社会学		②											
<人文・社会・自然科学>																				
クオリティ・オブ・ライフの探究		②	国際エロロジーの探究				②	葡萄栽培とワイン醸造				②								
文学I		②	古代学I		②	文学II		②	古代学II		②									
音楽と文化I		②	文化人類学I		②	音楽と文化II		②	文化人類学II		②									
考古学I		②	ジェンダー論I		②	考古学II		②	ジェンダー論II		②									
哲学I		②	倫理学I		②	哲学II		②	倫理学II		②									
歴史学I(休講)		②	倫理学II		②	歴史学II(休講)		②	倫理学III		②									
宗教と人間I		②	心理学I		②	宗教と人間II		②	心理学II		②									
学校と子どもI		②	食生活と健康		②	学校と子どもII		②												
青年と社会		②	生活世界の探究				②													
人文地理I		②	社会学I(休講)		②	人文地理II		②	社会学II		②									
現代中国の政治		②	日本の経済と社会		②	現代中国の社会・経済		②	日本の法と文化		②									
法学		②	日本国憲法		②	中国の歴史・文化		②												
生物と環境I		②	自然の探究I		②	生物と環境II		②	自然の探究II		②									
数学I		②	人間と科学I		②	数学II		②	人間と科学II		②									
科学史		②																		

【注意事項】
①グレーの網掛けは2022年度休講科目です。休講科目は、科目名のうしろに“休講”が記入されています。

区分・部門	年次	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		履修方法																																																				
		科目	単位	科目	単位	科目	単位	科目	単位																																																					
総合基礎教育科目 24	共 生	<ICTスキル>								*印の科目を含め24単位を必修																																																				
		*情報処理演習 I ①	*情報処理演習 II ①	情報社会の権利と倫理 ②	ICTと情報社会 ②																																																									
		<言語スキル>									*印の科目を含め100単位を必修																																																			
		アクティブ・リーディング I ②	アクティブ・ライティング I ②	アクティブ・リーディング II ②	アクティブ・ライティング II ②	アクティブ・リーディング III ②	アクティブ・ライティング III ②																																																							
		<ヒューマンズスキル>										*印の科目を含め100単位を必修																																																		
		学びと社会のデザイン I ②	学びと社会のデザイン II A ②	学びと社会のデザイン II B ②																																																										
		<キャリア形成支援>											*印の科目を含め100単位を必修																																																	
		ワークル論：働くための基礎知識 ②	ファイナシャル・リテラシー ②	キャリアデザイン入門 ②	キャリア形成論 ②	キャリアデザイン基礎 ②	キャリアデザイン発展 ②	実践キャリア論 ②	キャリアデザイン発展 ②																																																					
		<国際（英語）>												*印の科目を含め100単位を必修																																																
		コミュニケーション基礎英語A ②	コミュニケーション基礎英語B ②	語学留学 I（休講） ①	語学留学 II（休講） ①																																																									
		<スポーツと健康>													*印の科目を含め100単位を必修																																															
		スポーツと健康（バスケットボール） ①	スポーツと健康（軽スポーツ I） ①	スポーツと健康（バレーボール） ①	スポーツと健康（軽スポーツ II） ①	スポーツと健康（バドミントン） ①	スポーツと健康（トレーニング実践） ①	スポーツと健康（柔道） ①	競技スポーツ実践A ①							競技スポーツ実践B ①	競技スポーツ実践C ①	競技スポーツ実践D ①	競技スポーツ実践E ①	競技スポーツ実践F ①																																										
		<人文・社会・自然科学>														*印の科目を含め100単位を必修																																														
		クオリティ・オブ・ライフの探究 ②	国際エコロジーの探究 ②	文学 I ②	古代学 I ②	文学 II ②	古代学 II ②	音楽と文化 I ②	文化人類学 I ②								音楽と文化 II ②	文化人類学 II ②	考古学 I ②	ジエター論 I ②	考古学 II ②	ジエター論 II ②	哲学 I ②	論理学 I ②	哲学 II ②	論理学 II ②	歴史学 I（休講） ②	倫理学 I ②	歴史学 II（休講） ②	倫理学 II ②	宗教と人間 I ②	心理学 I ②	宗教と人間 II ②	心理学 II ②	学校と子ども I ②	青年と社会 ②	学校と子ども II ②	生活世界の探究 ②	人文地理 I ②	社会学 I（休講） ②	人文地理 II ②	社会学 II ②	現代中国の政治 ②	現代中国の社会・経済 ②	経済学 I ②	経済学 II ②	日本の経済と社会 ②	中国の歴史・文化 ②	日本の法と文化 ②	日本国憲法 ②	生物と環境 I ②	自然の探究 I ②	生物と環境 II ②	自然の探究 II ②	数学 I ②	人間と科学 I ②	数学 II ②	人間と科学 II ②	科学史 ②	クオリティ・オブ・ライフの探究 ②	国際エコロジーの探究 ②	葡萄栽培とワイン醸造 ②
		導入分野	区分	【1年次配当科目】		【2年次配当科目】		【3年次配当科目】									【4年次配当科目】		*印の科目を含め100単位を必修																																											
				食生活論 ②	*管理栄養士概論 ②	基礎化学 ②	*有機化学 ②	基礎生物学 ②	カウンセリング演習 ①								*統計学演習 I ①	医学概論 ②		統計学演習 II ①																																										
		専門基礎分野	社会環境と健康	【前期科目】	【後期科目】	【前期科目】	【後期科目】	【前期科目】	【後期科目】								【前期科目】	【後期科目】		*印の科目を含め100単位を必修																																										
				*健康の概念と行政、環境 ②	*社会福祉概論 ②	*疾病の成り立ち I ②	*疾病の成り立ち II ②	*公衆衛生と疾病予防 ②	*生化学 ②								*細胞生化学 ②	*生化学実験 I ①			*生化学実験 II ①																																									
		食物と健康	*食事設計実習 ①	*食品学総論 ②	*食品学実験 ①	*食品学各論 ②	*食品加工学 ②	*食品加工学実習 ①	*食品衛生学 ②								*食品衛生学実験 ①	*調理科学 ②			*応用調理実習 ①																																									
			*基礎調理実習 I ①	*基礎調理実習 II ①	*代謝栄養学 ②	*栄養学実験 ①	*応用栄養学 I ②	*応用栄養学 II ②	*応用栄養学実習 ①								*応用栄養学 III ②																																													
		専門分野	基礎栄養学	【前期科目】	【後期科目】	【前期科目】	【後期科目】	【前期科目】	【後期科目】								【前期科目】	【後期科目】			*印の科目を含め100単位を必修																																									
			応用栄養学		*基礎栄養学 ②	*代謝栄養学 ②	*栄養学実験 ①	*応用栄養学実習 ①	*応用栄養学 III ②																																																					
			栄養教育論	*栄養教育論 ②	*栄養教育マネジメント ②	*栄養教育マネジメント実習 ①	*栄養教育実践論 ②	*栄養教育実践実習 ①																																																						
			臨床栄養学		*臨床栄養学総論 ②	*臨床栄養学各論 I ②	*臨床栄養学各論 II ②	*臨床栄養学各論実習 ①	*臨床栄養学各論実習 ①								*臨床栄養学各論 III ②																																													
公衆栄養学				*公衆栄養学 ②	*公衆栄養学マネジメント ②		*公衆栄養学実習 ①																																																							
給食経営管理論			*給食計画・実務論 ②	*給食運営実習 ①	*給食経営管理論 ②	*給食経営管理実習 ①																																																								
専門発展分野	総合演習					【通年科目】	*総合演習 I（学外実習事前・事後指導） ①	【前期科目】	*総合演習 II ①	*印の科目を含め100単位を必修																																																				
	臨地実習			*校外実習（給食の運営） ①			*臨地実習 I（公衆栄養学） ①	*臨地実習 II（給食経営管理論） ①	*臨地実習 III（臨床栄養学） ①																																																					
健康栄養特講	【前期科目】	【後期科目】	【前期科目】	【後期科目】	【前期科目】	【後期科目】	【前期科目】	【後期科目】	*印の科目を含め100単位を必修																																																					
	*栄養英語 ①	栄養管理海外研修 ②	H A C C P 管理演習 ①	*栄養学基礎英語 ①	*専門演習 I ①	*スポーツ栄養管理 ②	生化学 II ②	健康栄養特講 A ①			健康栄養特講 B（生化学） ①	健康栄養特講 C（食品学総論・食品衛生学） ①					健康栄養特講 D（栄養学） ①	健康栄養特講 E（応用栄養学） ①			健康栄養特講 F（栄養教育論） ①	健康栄養特講 G（臨床栄養学） ①	健康栄養特講 H（公衆衛生学・公衆栄養学） ①	健康栄養特講 I（給食経営管理論） ①	健康栄養特講 J（食品学各論・食品加工学） ①																																					
地域連携					【前期科目】	*やまなしの食 ②	*地域の食と健康総合演習 ①	*地域の食と栄養活動実習 I（地域農畜産物活用） ①			【前期科目】	*地域の食と栄養活動実習 II ①																																																		
栄養教諭課程	区分	【1年次配当科目】		【2年次配当科目】		【3年次配当科目】		【4年次配当科目】			【教職課程履修者対象】 教職課程の履修については教職課程履修規程に従うこと																																																			
		栄養教諭の役割・職務内容 幼児・児童・生徒の栄養に係る課題 食生活に関する歴史的・文化的事項		食教育論 ②		食育指導法 ②																																																								
		食に関する指導の方法																																																												
		教育の理念、教育に関する歴史・思想		学校と教育の歴史 ②																																																										
		教育の意義、教育の役割・職務内容		教職概論 ②																																																										
		教育に関する社会的・制度的・経済的・法的事項						教育社会学（栄養教諭） ①																																																						
		幼児・児童・生徒の心身の発達・学習の過程						教育心理学（栄養教諭） ①																																																						
		特別支援教育の意義・内容		特別支援教育概論 ①																																																										
		教育課程の意義・編成の方法		教育課程論 ②																																																										
		道徳、総合的な学習の時間、特別活動に関する事項		道徳教育指導論（栄養教諭） ①		特別活動論 ②		総合的な学習の時間の指導法 ①																																																						
教育の方法・技術		教育方法論（栄養教諭） ①																																																												
生徒指導の理論・方法						生徒指導論 ②																																																								
教育相談の理論・方法						教育相談 ②																																																								
教育実践に関する科目						栄養教育実習指導 ①	栄養教育実習 ①																																																							
教職実践演習								教職実践演習（栄養教諭） ②																																																						

【注意事項】
 ① *印の科目は必修科目です。
 ② 網掛けは、2022年度休講科目です。

区分・部門	年次・科目	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		履修条件	履修方法		
		科目	単	科目	単	科目	単	科目	単				
総合基礎教育科目	共 生	<ICTスキル>										選択必修	総合基礎教育科目から合計28単位以上を修得すること。
		ICTリテラシーA ② ICTリテラシーB ②	情報社会の権利と倫理 ② 資格情報技術 ②	ICTと情報社会 ②									
		<言語スキル>											
		アクティブ・リーディングⅠ ② アクティブ・ライティングⅠ ②	アクティブ・リーディングⅡ ② アクティブ・ライティングⅡ ②	アクティブ・リーディングⅢ ② アクティブ・ライティングⅢ ②									
		<コミュニケーションスキル>											
		学びの社会のデザインⅠ ② ウェルビーイングⅠ ②	学びの社会のデザインⅡ A ② ビア・サポート論 ②	学びの社会のデザインⅡ B ② ビア・サポート実践 ②									
		<キャリア形成支援>											
		ワールド論：専攻のための基礎知識 ②	キャリア形成論 ②	キャリアデザイン基礎 ②				キャリアデザイン発展 ②	実践キャリア論 ②	ビジネス・コミュニケーションⅠ ②	ビジネス・コミュニケーションⅡ ②		
		キャリアデザイン入門 ②											
		産業と職業の研究 ②		セルフブランディング ②	女性とキャリア形成 ②								
		グローバル人材の形成 ②											
		海外キャリア探訪A ②											
		<国際>											
		異文化コミュニケーションA ②		異文化コミュニケーションB ②									
		国際コミュニケーションⅠ ② (前期・後期それぞれに開講)		中国文化交流A(休講) ② 中国文化交流B(休講) ②									
				日本文化交流A ② 日本文化交流B ②									
				国際文化交流A ② 国際文化交流B ②									
				海外文化研修A ④ 海外文化研修B ④									
		<国際(英語)>											
		(前期学期制科目) (後期学期制科目)		(前期科目) (前期集中科目)									
		コミュニケーション基礎英語A ② コミュニケーション基礎英語B ②		語学留学Ⅰ(休講) ① 語学留学Ⅱ(休講) ①									
		コミュニケーション初級英語A ② コミュニケーション初級英語B ②											
		総合英語Ⅰ ② 総合英語Ⅱ ②											
		(前期科目) (後期科目)											
		資格英語(TOEIC)ⅠA ① 資格英語(TOEIC)ⅠB ①											
		<国際(日本語)>											
〔1年次専攻科目〕													
日本語Ⅰ ② (前期・後期それぞれに開講)		※外国人留学生として入学した学生は、日本語Ⅰ・Ⅱ必修											
日本語Ⅱ ② (前期・後期それぞれに開講)													
(前期学期制科目) (後期学期制科目)													
実用日本語ⅠA ② 実用日本語ⅠB ②													
実用日本語ⅡA ② 実用日本語ⅡB ②													
(前期科目) (後期科目)													
日本語特講Ⅰ ② (前期・後期それぞれに開講)													
日本語特講Ⅱ ② (前期・後期それぞれに開講)													
(前期科目) (後期科目)		(前期科目) (後期科目)											
アカデミック日本語ⅠA ② アカデミック日本語ⅠB ②		アカデミック日本語ⅡA ② アカデミック日本語ⅡB ②											
キャリア日本語ⅠA ② キャリア日本語ⅠB ②		キャリア日本語ⅡA ② キャリア日本語ⅡB ②											
日本語文法 ① (前期・後期それぞれに開講)													
日本語コミュニケーション ① (前期・後期それぞれに開講)													
日本語読解 ① (前期・後期それぞれに開講)													
<国際(中国語)>													
(前期学期制科目) (後期学期制科目)		(前期学期制科目) (後期学期制科目)											
入門中国語 ② 基礎中国語 ②		中級中国語(前半) ② 中級中国語(後半) ②											
<人文・社会・自然科学>													
クオリア・オブ・ライフの探究 ② 国際エッセイの探究 ②									前期戦術とワイン醸造 ②				
文学Ⅰ ② 古代学Ⅰ ②		文学Ⅱ ② 古代学Ⅱ ②											
音楽と文化Ⅰ ② 文化人類学Ⅰ ②		音楽と文化Ⅱ ② 文化人類学Ⅱ ②											
考古学Ⅰ ② シンダー論Ⅰ ②		考古学Ⅱ ② シンダー論Ⅱ ②											
哲学Ⅰ ② 倫理学Ⅰ ②		哲学Ⅱ ② 倫理学Ⅱ ②											
歴史学Ⅰ ② 倫理学Ⅰ ②		歴史学Ⅱ ② 倫理学Ⅱ ②											
宗教と人間Ⅰ ② 心理学Ⅰ ②		宗教と人間Ⅱ ② 心理学Ⅱ ②											
学校と子どもⅠ ② 食生活と健康 ②		学校と子どもⅡ ②											
青年と社会 ②		生活世界の探究 ②											
人文地理Ⅰ ② 社会学Ⅰ(休講) ②		人文地理Ⅱ ② 社会学Ⅱ ②											
現代中国の政治 ② 経済学Ⅰ ②		現代中国の社会・経済 ② 経済学Ⅱ ②											
日本の経済と社会 ② 日本の法と文化 ②		中国の歴史・文化 ② 日本憲法論 ②											
生物と環境Ⅰ ② 自然の探究Ⅰ ②		生物と環境Ⅱ ② 自然の探究Ⅱ ②											
数学Ⅰ ② 人間と科学Ⅰ ②		数学Ⅱ ② 人間と科学Ⅱ ②											
科学史 ②													
専門教育科目	共通科目	〔1年次配当科目〕		〔2年次配当科目〕						A群：必修	2科目8単位		
		〔通年科目〕		〔通年科目〕									
		スポーツ基礎演習 ④		スポーツキャリア形成 ④									
		〔1・2年次配当科目〕											
		(前期科目)					(後期科目)						
		スポーツ史 ②		スポーツ経営学 ②		スポーツ社会学 ②		スポーツ政策論 ②		スポーツ教育論 ②			
		スポーツ哲学(体育原理を含む) ②		野外活動・教育論 ②		スポーツ心理学 ②		スポーツ教育論 ②		スポーツ教育論 ②			
		(前期・後期それぞれに開講)											
		ユートン演習(演習・演習方法等も含む) ②											
		〔1・2年次配当科目〕											
		(前期科目)					(後期科目)						
		機能解剖学 ②		トレーニング論 ②		体力論 ②		スポーツ医学 ②		スポーツ傷害論 ②			
スポーツ健康科学論 ②				スポーツバイオメカニクス ②		スポーツ傷害論 ②							
(前期・後期それぞれに開講)													
スポーツ生理学 ②		スポーツ栄養学 ②											
D群	a	〔1・2年次配当科目〕											
		(前期・後期それぞれに開講)											
		実技実習a1(トレーニング/機能的運動) ①		実技実習a2(ダンス) ①		実技実習a3(器械運動) ①		実技実習a4(上肢伸・短距離 実技) ①		実技実習a5(陸上長距離) ①			
		実技実習a6(水泳・水中運動) ①											
		(前期集中科目)											
		実技実習a7(スケート) ①											
		〔1・2年次配当科目〕											
		(前期科目)					(後期科目)						
		実技実習b4(ホッケー) ①		実技実習b6(テニス) ①									
		(前期・後期それぞれに開講)											
		実技実習b1(バスケットボール) ①		実技実習b2(サッカー) ①		実技実習b3(ラグビー) ①		実技実習b5(バレーボール) ①					
		実技実習b7(フットボール) ①											
〔1・2年次配当科目〕													
(前期科目)					(後期科目)								
実技実習c1(空道) ①		実技実習c3(空手道) ①		実技実習c2(レスリング) ①									
(前期・後期それぞれに開講)													
〔1年次配当科目〕													
(前期集中科目)					(後期集中科目)								
実技実習d1(野外活動:キャンプ) ①													
実技実習d2(野外活動:水辺) ①		実技実習d3(野外活動:山上) ①											

区分・部門	年次・科目	第1年次				第2年次				第3年次				第4年次				履修条件	履修方法				
		科目	単	科目	単	科目	単	科目	単	科目	単	科目	単	科目	単								
専門教育科目	キャリア形成科目	コース共通						〔3年次配当科目〕 〔通年科目〕 スポーツ専門演習1 ④				〔4年次配当科目〕 〔通年科目〕 スポーツ専門演習2 ④				コース共通：必修	2科目8単位 必修						
		競技スポーツコース	a 科目群	〔2・3・4年次配当科目〕 〔前期科目〕 競技スポーツトレーニング論 ② スポーツコミュニケーション論 ② 競技スポーツデータ論 ②				〔後期科目〕 競技スポーツ情報戦略論 ② 競技スポーツマネジメント論 ② 競技スポーツコーチング論 ② 障がい者競技スポーツ論 ②				a 科目群： 3科目6単位以上				計18単位以上 選択必修	競技スポーツコース、 生涯スポーツコースい ずれかを選択し、主 コースのa～c科目群か らそれぞれ3科目6単 位以上、計18単位以 上を修得すること。						
			b 科目群	〔2・3・4年次配当科目〕 〔前期科目〕 競技スポーツ戦略論 ② 競技スポーツ技術論 ② 競技スポーツ体力論 ② 競技スポーツ心理学論 ② 競技スポーツ傷害論 ② 競技スポーツ栄養論 ②				〔3・4年次配当科目〕 〔前期集中科目〕 トレーニング指導実習 ①				b 科目群： 3科目6単位以上											
			c 科目群	〔2・3・4年次配当科目〕 〔前期科目〕 競技スポーツ演習1(マネジメント) ② 競技スポーツ演習3(ゲーム分析) ② 競技スポーツ演習5(心理) ② 競技スポーツ演習7(トレーニング) ② 競技スポーツ演習10(チームマネジメント) ② 競技スポーツ演習2(バイオメカニクス) ② 競技スポーツ演習4(体力) ② 競技スポーツ演習6(傷害) ② 競技スポーツ演習8(テーラードコース) ②				〔後期科目〕 競技スポーツ演習7(トレーニング) ②				c 科目群： 3科目6単位以上											
		生涯スポーツコース	a 科目群	〔2・3・4年次配当科目〕 〔前期科目〕 スポーツ文化論 ② スポーツビジネス論 ② スポーツ行政論 ② スポーツメディア論 ②				〔後期科目〕 スポーツプロモーション論 ② スポーツシニア福祉(スポーツ・レクリエーション) ②				a 科目群： 3科目6単位以上				計18単位以上 選択必修							
			b 科目群	〔2・3・4年次配当科目〕 〔前期科目〕 レクリエーション論 ② 健康心理学論 ② 障がい者スポーツ論 ② 高齢者スポーツ論(要介護者を含む) ② 健康体力論 ②				〔3・4年次配当科目〕 〔前期科目〕 運動処方論 ②				b 科目群： 3科目6単位以上											
			c 科目群	〔2・3・4年次配当科目〕 〔前期科目〕 生涯スポーツ演習1(スポーツプロモーション) ② 生涯スポーツ演習2(マネジメント) ② 生涯スポーツ演習4(子どものスポーツ活動) ② 生涯スポーツ演習5(高齢者・要介護者のスポーツ活動) ② 生涯スポーツ演習9(健康科学) ②				〔前期集中科目〕 生涯スポーツ演習7(健康運動指導等研修(事前事後指導を含む)) ②				〔後期科目〕 生涯スポーツ演習3(地域スポーツ) ② 生涯スポーツ演習6(野外活動・教育) ② 生涯スポーツ演習8(スポーツメディア論) ②						c 科目群： 3科目6単位以上					
		D 群	A 群	〔A群:コーチング系〕				〔3・4年次配当科目〕 〔通年科目〕 種目別コーチング演習1(陸上競技:短距離・障害) ④ 種目別コーチング演習8(ホッケー) ④ 種目別コーチング演習2(陸上競技:長距離・駅伝) ④ 種目別コーチング演習9(ルールボール) ④ 種目別コーチング演習3(水泳) ④ 種目別コーチング演習10(ソフトボール) ④ 種目別コーチング演習4(スケート) ④ 種目別コーチング演習11(柔道) ④ 種目別コーチング演習5(スカットボール) ④ 種目別コーチング演習12(レスリング) ④ 種目別コーチング演習6(サッカー) ④ 種目別コーチング演習13(空手道) ④ 種目別コーチング演習7(ラグビー) ④				〔3・4年次配当科目〕 〔前期科目〕 競技スポーツサポート演習7(チームマネジメント) ②				選択必修				A群～F群から計6単位以上 修得すること。			
				B 群	〔B群:競技スポーツサポート系〕				〔3・4年次配当科目〕 〔前期科目〕 競技スポーツサポート演習1(マネジメント) ② 競技スポーツサポート演習4(体力) ② 競技スポーツサポート演習2(バイオメカニクス) ② 競技スポーツサポート演習5(心理) ② 競技スポーツサポート演習3(戦術・ゲーム分析) ② 競技スポーツサポート演習6(傷害) ②				〔3・4年次配当科目〕 〔前期科目〕 生涯スポーツサポート演習6(野外活動・教育) ② 生涯スポーツサポート演習7(地域スポーツ) ② 〔後期科目〕 生涯スポーツサポート演習1(スポーツプロモーション) ② 生涯スポーツサポート演習4(高齢者スポーツ) ② 生涯スポーツサポート演習2(スポーツマネジメント) ② 生涯スポーツサポート演習5(障がい者スポーツ) ② 生涯スポーツサポート演習3(子どもスポーツ) ② 生涯スポーツサポート演習8(健康科学) ②					選択必修					
					C 群	〔C群:生涯スポーツサポート系〕				〔3・4年次配当科目〕 〔前期科目〕 生涯スポーツサポート演習6(野外活動・教育) ② 生涯スポーツサポート演習7(地域スポーツ) ② 〔後期科目〕 生涯スポーツサポート演習1(スポーツプロモーション) ② 生涯スポーツサポート演習4(高齢者スポーツ) ② 生涯スポーツサポート演習2(スポーツマネジメント) ② 生涯スポーツサポート演習5(障がい者スポーツ) ② 生涯スポーツサポート演習3(子どもスポーツ) ② 生涯スポーツサポート演習8(健康科学) ②				選択必修									
D 群	〔D群:保健体育指導系〕					〔2・3・4年次配当科目〕 〔前期科目〕 保健体育科教育法1(体育) ② 衛生学(公衆衛生学を含む) ② 体育科内容・指導論1(体育理論) ② 学校保健学(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む) ② 体育科内容・指導論2(体育実技) ② 〔後期科目〕 保健体育科指導論 ② 保健体育科教育法2(保健) ②				〔3・4年次配当科目〕 〔前期科目〕 体育科内容・指導論1(体育理論) ② 体育科内容・指導論2(体育実技) ②				選択必修									
	E 群					〔E群:スポーツ英語系〕				〔前期科目〕 スポーツ英語 a1(会話) ② スポーツ英語 b1(読解) ② 〔後期科目〕 スポーツ英語 a2(会話) ② スポーツ英語 b2(読解) ② スポーツ英語 b4(読解) ② スポーツ英語 a4(会話) ② スポーツ英語 b3(読解) ②				選択必修									
						F 群	〔F群:関連科目〕				〔2・3年次配当科目〕 〔通年科目〕 インターシップ ②				〔3年次配当科目〕 〔後期科目〕 教職特別演習Ⅰ ②				〔4年次配当科目〕 〔前期科目〕 教職特別演習Ⅱ ② 健康運動特別演習 ②				選択必修
		第1年次配当科目					第2年次配当科目				第3年次配当科目				第4年次配当科目				教職課程の履修については、教職課程履修規則に従うこと。				
教職課程	第1年次配当科目		〔前期科目〕 教職概論 ② 教育心理学(中・高) ② 教育課程論 ② 教育社会学(中・高) ② 特別活動論 ② 教育方法論(中・高) ② 生徒指導・教育相談 ② 進路指導論 ② 教育におけるICT活用 ① 特別支援教育概論 ①		〔後期科目〕 教育心理学(中・高) ② 学校と教育の歴史 ② 教育社会学(中・高) ② 総合的な学習の時間の指導法 ① 生徒指導・教育相談 ② 進路指導論 ② 特別支援教育概論 ①		〔前期科目〕 学校と教育の歴史 ② 道徳教育指導論(中) ② 総合的な学習の時間の指導法 ① 介護福祉概論(事前事後指導を含む) ②		〔後期科目〕 道徳教育指導論(中) ② 介護福祉概論(事前事後指導を含む) ②		〔前期科目〕 教育実習研修 ② 教職実践演習(中・高) ② 教育実習Ⅰ ② 教育実習Ⅱ ①		〔後期科目〕 教職実践演習(中・高) ② 教育実習Ⅰ ② 教育実習Ⅱ ①		教職課程の履修については、教職課程履修規則に従うこと。								

【注意事項】

①グレーの網掛けは2022年度休講科目です。休講科目は、科目名の後ろに“休講”が記入されています。

国際リベラルアーツ学部 2022年度 教育課程表
iCLA 2022AY Curriculum

科目区分 Cluster/Discipline	コースナンバー Course Number	授業科目の名称 Course Title	履修の前提要件 Prerequisites	配当 年次 Grade Level	開講学期 Semester	単位数 # Credits			授業形態 Class Style			
			コースナンバーまたは 区分単位数の要件 Course Number or Credits			必修 Req	選択 Elec	自由 Free	講義 Lec	演習 Sem	実習 WS	
アカデミック英語 English for Academic Excellence	EFAE010	English for Academic Excellence (EFAE) : A アカデミック英語:A	none	1	前・後 S & F		15			○		
	EFAE020	English for Academic Excellence (EFAE) : B アカデミック英語:B	EFAE010 or equivalent	1	前・後 S & F	15				○		
—		小計(2科目) Subtotal: 2										
基幹教育 Foundation Courses	FNDN030	Liberal Arts Preparation (Japanese) リベラルアーツ入門	native or N2 proficiency, and placement test	1	前・後 S & F		3			○		
	FNDN050	Composition Lab 英作文ラボ	EFAE020 or equivalent, and placement test	1	前・後 S & F		1				○	
	FNDN100	Academic Reading Across Disciplines 分野横断型アカデミック・リーディング	EFAE020	1	前・後 S & F		3			○		
	FNDN101	Composition 1 英作文1	EFAE020 or equivalent, and placement test	1	前・後 S & F		3			○		
	FNDN102	Composition 2 英作文2	FNDN101	1	前・後 S & F		3			○		
	FNDN103	Expository Research Writing リサーチ・ライティング	EFAE020 or equivalent, and placement test	1	後 F		3			○		
	FNDN115	Omnibus Themes リベラルアーツ・オムニバス	none	1	前・後 S & F	3				○		
	FNDN140	World History 世界史	none	1	前・後 S & F	3				○		
	FNDN150	Academic Study Abroad Preparatory Course 留学準備コース	EFAE020	1	前・後 S & F		12			○		
	FNDN285	Internship インターンシップ	FNDN290	2	前・後 S & F		1					○
	FNDN290	Career Design 1 (Japanese/English) キャリア・デザイン 1	[English] EFAE020; [Japanese] native or N2 proficiency	1	前・後 S & F	1					○	
	FNDN490	Career Design 2 (Japanese) キャリア・デザイン 2	native or N2 proficiency, and FNDN290	2	前・後 S & F		1				○	
	FNDN491	Career Design 3 (Japanese) キャリア・デザイン 3	native or N2 proficiency, and FNDN490	3	前・後 S & F		1				○	
	FNDN492	Life Story for Career Building キャリアビルディングのためのライフストーリー	FNDN290	3	前・後 S & F		1				○	
	(FNDN301-342)	(Studying Abroad) (海外留学)	(none)	2	前・後 S & F		42					
	FNDN499	Graduation Research Project 卒業研究	(see iCLA Student Handbook)	4	前・後 S & F	2					○	
—		小計(16科目) Subtotal: 16										
グローバルビジネス ・ 経済学 Global Business & Economics	ECON101	Microeconomics ミクロ経済学	none	1	前・後 S & F		3			○		
	ECON102	Macroeconomics マクロ経済学	ECON100 or ECON101	1	前 S		3			○		
	ECON120	Accounting アカウンティング	none	1	後 F		3			○		
	ECON130	Organizational Behavior 組織行動学	none	1	前 S		3			○		
	ECON201	Intermediate Microeconomics 中級ミクロ経済学	ECON100 or ECON101	1	後 F		3			○		
	ECON202	Intermediate Macroeconomics 中級マクロ経済学	ECON102 or ECON210	2	後 F		3			○		
	ECON/JPNA230	Japanese Economy & Business 日本経済とビジネス	none	1	後 F		3			○		
	ECON240	Operations Management オペレーション・マネジメント	ECON100 or ECON101	2	前 S		3			○		
	ECON250	International Business 国際ビジネス	ECON102 or ECON210	2	前・後 S & F		3			○		
	ECON260	Marketing マーケティング	none	2	後 F		3			○		
	ECON270	Money, Banking, and Financial Markets 金融市場	ECON102 or ECON210	2	前 S		3			○		
	ECON280	Business Law ビジネス法	none	1	後 F		3			○		
	ECON320	International Trade & Economics of Globalization 国際貿易とグローバル経済	ECON102 or ECON210	2	前 S		3			○		
	ECON340	Small Business Finance 起業ファイナンス	none	2	後 F		3			○		
	ECON350	Entrepreneurship 起業・ベンチャー論	none	2	前 S		3			○		
	ECON360	Corporate Finance コーポレートファイナンス	none	2	前 S		3			○		
	ECON/DATA370	Introduction to Fintech: Reshaping the Financial World フィンテック概論:金融界の再構築	none	3	後 F		3			○		
	ECON390	Industrial organization 産業組織論	ECON200 or ECON201	2	後 F		3			○		
	ECON450	Competitive Strategy 競争戦略	ECON100 or ECON101, and ECON260 and ECON360	3	前 S		3			○		
	ECON498	Seminar (Global Business & Economics) グローバルビジネス・経済学演習	complete at least 7 lecture courses in Economics	4	前・後 S & F		1				○	
—		小計(20科目) Subtotal: 20										

科目区分 Cluster/Discipline	コースナンバー Course Number	授業科目の名称 Course Title	履修の前提要件 Prerequisites	配当 年次 Grade Level	開講学期 Semester	単位数 # Credits			授業形態 Class Style			
			コースナンバーまたは 区分単位数の要件 Course Number or Credits			必修 Req	選択 Elec	自由 Free	講義 Lec	演習 Sem	実習 WS	
政治学 Political Science	PSCI100	Introduction to Political Science 政治学入門	none	1	前・後 S & F		3			○		
	PSCI/SOCI/ECON210	Methods of Social Research 社会調査方法論	FNDN115 or FNDN111 or FNDN112 or FNDN110	1	前 S		3			○		
	PSCI215	Political Thought 政治思想	PSCI100 or PSCI200	1	後 F		3			○		
	PSCI220	Comparative Politics 比較政治学	PSCI100 or PSCI200	1	前 S		3			○		
	PSCI230	International Relations 国際関係論	PSCI100 or PSCI200	1	後 F		3			○		
	PSCI240	Introduction to Public Administration 行政学入門	PSCI100 or PSCI200	1	後 F		3			○		
	PSCI/SOCI255	Public Policy and Service 公共政策と公共サービス	PSCI240	2	前 S		3			○		
	PSCI/ECON275	International Political Economy 国際政治経済学	ECON100 or ECON101, and PSCI230	2	後 F		3			○		
	PSCI311	International Relations in the Asian Pacific Region アジア太平洋地域における国際関係論	PSCI230	2	前 S		3			○		
	PSCI320	International Security 国際安全保障論	PSCI230	2	前 S		3			○		
	PSCI/JPNA355	Japanese Politics and Diplomacy 日本の政治と外交	PSCI230 or PSCI220	2	後 F		3			○		
	PSCI/ECON365	Political Economy of Development 開発の政治経済学	ECON100 or ECON101, and PSCI220	3	後 F		3			○		
	PSCI/SOCI370	Nonprofit/Social Enterprise Management 非営利組織と社会的企業	PSCI240	3	後 F		3			○		
	PSCI499	Seminar (Political Science) 政治学演習	complete at least 7 lecture courses in Political Science	4	前・後 S & F		1				○	
—	小計(14科目) Subtotal: 14											
文学・ 言語学 Language Arts	LANG100	Introduction to Language Concepts 言語概念入門	none	1	後 F		3			○		
	LANG110	English for Specific Purposes 専門英語	none	1	前 S		3			○		
	LANG150	Literature Appreciation 文学鑑賞	none	1	後 F		3			○		
	LANG200	Sociolinguistics 社会言語学	LANG100	1	前 S		3			○		
	LANG210	Semantics 意味論	none	1	後 F		3			○		
	LANG220	Rhetorical Analysis and Composition 修辞学と作文	FNDN102 or FNDN103	1	前 S		3			○		
	LANG/JPNA235	Japan: Lost in Adaptation and Representation ジャパニ：世界から見た日本	LANG150 or LANG220	2	後 F		3			○		
	LANG300	World Englishes 世界の英語	LANG100	3	後 F		3			○		
	LANG/JPNA310	Modern Japanese Society and Culture Through Literature 近現代日本における社会と文化	none	2	前 S		3			○		
	LANG331	Creative Nonfiction クリエイティブ・ノンフィクション	LANG 220 or LANG/JPNA 240 or LANG/JPNA 235	2	後 F		3			○		
	LANG360	Second Language Acquisition 第二言語習得論	none	3	前 S		3			○		
	LANG370	Contemporary Science Fiction 現代サイエンス・フィクション	LANG 220 or LANG/JPNA 240 or LANG/JPNA 235	3	前 S		3			○		
	LANG/JPNA450	Comparative Literature Studies 比較文学研究	LANG/JPNA 310 or LANG 331 or LANG 345 or LANG370	3	前 S		3			○		
	LANG/SOCI215	Workshop: Archeolinguistics ワークショップ：考古言語学	none	2	後 F		1				○	
—	小計(14科目) Subtotal: 14											
芸術 Arts	ARTS100	Art Appreciation 美術鑑賞	none	1	後 F		3			○		
	ARTS/JPNA111	Calligraphy and Kanji Culture 書道と漢字文化	none	1	前・後 S & F		3			○		
	ARTS210	History of Art 美術史	none	1	前 S		3			○		
	ARTS310	Graphic Design Studio グラフィックデザイン・スタジオ	ARTS100 and ARTS187 and ARTS287/289	3	後 F		3			○		
	ARTS420	Art Portfolio アート・ポートフォリオ	1) 1 Art Course from: ARTS100 or ARTS210 or ARTS/JPNA220 or ARTS/MUSC110 AND 2) 1 Art Course from: ARTS300 or ARTS310 AND 3) 2 Art Workshops from: ARTS180/280/187/287/289/186/286/288	4	前 S		3			○		
	ARTS180	Workshop: Drawing 1 ワークショップ：絵画実習 1	none	1	前 S		1				○	
	ARTS/JPNA184	Workshop: Traditional Japanese Culture ワークショップ：日本の伝統的文化実習	none	1	前・後 S & F		1				○	
	ARTS186	Workshop: Painting and Sculpting 1 ワークショップ：絵画と彫刻 1	none	1	前 S		1				○	
	ARTS187	Workshop: Graphic Design 1 ワークショップ：グラフィックデザイン1	none	1	後 F		1				○	
	ARTS280	Workshop: Drawing 2 ワークショップ：絵画実習2	none	1	後 F		1				○	
	ARTS288	Workshop: Painting and Sculpting 2 ワークショップ：絵画と彫刻2	none	2	後 F		1				○	
	ARTS289	Workshop: Graphic Design 2 ワークショップ：グラフィックデザイン2	none	2	前 S		1				○	
—	小計(12科目) Subtotal: 12											

科目区分 Cluster/Discipline	コースナンバー Course Number	授業科目の名称 Course Title	履修の前提要件 Prerequisites	配当 年次 Grade Level	開講学期 Semester	単位数 # Credits			授業形態 Class Style					
			コースナンバーまたは 区分単位数の要件 Course Number or Credits			必修 Req	選択 Elec	自由 Free	講義 Lec	演習 Sem	実習 WS			
人文教養 Inter- disciplinary Arts	芸能 Performing Arts	PART120	Introduction to Filmmaking 映画製作入門	none	1	前 S		3		○				
		PART/JPNA253	Samurai Code and Culture 武士道とサムライ文化	none	2	前・後 S & F		3		○				
		PART/JPNA320	Film and Animation Studio 映画とアニメーションスタジオ	PART120		3	前 S		3		○			
		PART/JPNA351	Japanese Traditional Theater 日本の伝統演劇	SOCI/PART/JPNA110 or SOCI/JPNA270 or PART/JPNA150 or SOCI/JPNA160		2	後 F		3		○			
		PART180	Workshop: Acting 1 ワークショップ:演技実習1	none		1	前 S		1			○		
		PART185	Workshop: Directing ワークショップ:演劇監督実習	none		1	前 S		1			○		
		PART280	Workshop: Acting 2 ワークショップ:演技実習2	none		2	後 F		1			○		
		PART/JPNA380	Workshop: Noh Theater ワークショップ:能実習	none		1	前 S		1			○		
	—	小計(8科目) Subtotal: 8												
	音楽 Music	ARTS/MUSC110	Interdisciplinary Arts インターディシプリナリー・アート	none		1	前 S		3		○			
		MUSC120	Fundamentals of Sound and Music 音と音楽概論	none		1	後 F		3		○			
		MUSC/JPNA210	Japanese Traditional Music 日本の伝統音楽	none		2	前 S		3		○			
		MUSC240	Music of the 20th Century 20世紀の音楽	none		2	後 F		3		○			
		MUSC251	Music Technology 音楽技術	none		2	前 S		3		○			
		MUSC315	Audio Engineering オーディオ工学	MUSC310 or MUSC251, and MUSC120		2	後 F		3		○			
		MUSC320	Performance Strategies パフォーマンス・ストラテジー	MUSC310 or MUSC240, and MUSC120		3	前 S		3		○			
		MUSC/PART130	Workshop: Guitar ワークショップ:音楽実習(ギター)	none		1	後 F		1			○		
	MUSC/JPNA189	Workshop: Shakuhaichi ワークショップ:音楽実習(尺八)	none		1	前 S		1			○			
	MUSC/SPRT289	Workshop: Interpretative Dance ワークショップ:創作ダンス実習	none		2	後 F		1			○			
	—	小計(10科目) Subtotal: 10												
	人文教養 Inter. Arts	INTA499	Seminar (Interdisciplinary Arts) 人文教養演習	completed at least 7 lecture courses from Inter. Arts areas		4	前・後 S & F		1			○		
	—	小計(1科目) Subtotal: 1												
	日本研究 Japan Studies	歴史学 History	HIST/JPNA200	Japanese History Since 1800 19世紀以降の日本史	none		1	前・後 S & F		3		○		
			HIST/PSCI/JPNA254	History of Japan's International Relations 日本の国際関係史	none		2	後 F		3		○		
			HIST/ECON/JPNA301	History of Technology in Japan 日本技術史	none		2	前 S		3		○		
		—	小計(3科目) Subtotal: 3											
		日本語研究 Japanese Language	JPNL001	Konnichiwa Japanese こんにちは日本語	none		1	後 F		1			○	
			JPNL111	Japanese Language 1 日本語 1	(Placement test)		1	前・後 S & F		3			○	
JPNL112			Japanese Language 2 日本語 2	JPNL110 or JPNL111 or equivalent		1	前・後 S & F		3			○		
JPNL113			Japanese Language 3 日本語 3	JPNL120 or JPNL112 or equivalent		1	前・後 S & F		3			○		
JPNL114			Japanese Language 4 日本語 4	JPNL113 or equivalent		1	前・後 S & F		3			○		
JPNL115			Japanese Language 5 日本語 5	JPNL130 or JPNL114 or equivalent		1	前・後 S & F		3			○		
JPNL116			Japanese Language 6 日本語 6	JPNL210 or JPNL115 or equivalent		1	前・後 S & F		3			○		
JPNL117			Japanese Language 7 日本語 7	JPNL220 or JPNL116 or equivalent		1	前・後 S & F		3			○		
JPNL250			Professional Writing in Japanese 社会人としての日本語作文	native or JPNL300 or JPNL117		1	前・後 S & F		3			○		
JPNL270			Preparation for the N2 level of the Japanese Language Proficiency Test 日本語能力試験N2	JPNL210 or JPNL115 or equivalent		1	前 S		1			○		
JPNL/JPNA280			Workshop: Experiencing Teaching Japanese ワークショップ:日本語教育体験/観察	native or JPNL300 or JPNL117		2	前・後 S & F		1			○		
JPNL320			Socio-Cultural Communication in Japanese コミュニケーションのための日本語表現	JPNL220 or JPNL116 or equivalent		1	前 S		1			○		
JPNL370			Preparation for the N1 level of the Japanese Language Proficiency Test 日本語能力試験N1	JPNL300 or JPNL117 or equivalent		1	後 F		1			○		
—		小計(13科目) Subtotal: 13												
日本研究 Japan Studies		JPNA225	Cultural Exchange in Japanese 文化交流	JPNL210 or JPNL115 or equivalent		1	前 S		3		○			
		JPNA499	Seminar (Japan Studies) 日本研究演習	completed at least 7 lecture courses from Japan Studies (JPNA)		4	前・後 S & F		1			○		
—		小計(2科目) Subtotal: 2												

科目区分 Cluster/Discipline	コースナンバー Course Number	授業科目の名称 Course Title	履修の前提要件 Prerequisites	配当 年次 Grade Level	開講学期 Semester	単位数 # Credits			授業形態 Class Style			
			コースナンバーまたは 区分単位数の要件 Course Number or Credits			必修 Req	選択 Elec	自由 Free	講義 Lec	演習 Sem	実習 WS	
数的推理 ・ 自然科学 Quantitative Reasoning & Natural Sciences	QREA101	Math for Liberal Arts リベラルアーツのための数学	none	1	前 S		3		○			
	QREA102	College Algebra 大学代数学	none	1	後 F		3		○			
	QREA/PSCI/ECON203	Statistics 統計学	none	2	後 F		3		○			
	SCNS110	Earth Science 地球科学	none	1	前 S		3		○			
—		小計(4科目) Subtotal: 4										
データ・サイエンス Data Science	DATA100	Introduction to Computer Science コンピュータ科学入門	none	1	前 S		3		○			
	DATA150	Introduction to Python Programming パイソン・プログラミング入門	none	1	前・後 S & F		3		○			
	DATA160	Coding Bootcamp: Python ブートキャンプ: パイソン	DATA150 (can be taken concurrently)	1	後 F		1			○		
	DATA250	Mathematics for Data Science データ・サイエンスのための数学	DATA150 and QREA/PSCI/ECON203	2	後 F		3		○			
	DATA260	Coding Bootcamp: Applied Probability and Statistics ブートキャンプ: 応用確率統計学	DATA250	2	前 S		1			○		
	DATA350	Machine Learning 機械学習	DATA260 and DATA160 and QREA/PSCI/ECON203	3	前 S		3		○			
—		小計(6科目) Subtotal: 6										
保健体育 Health & Physical Education	SPRT/JPNA180	Health & Physical Education 1 (Nanba) 保健体育1 (種目: ナンバ式骨体操)	none	1	後 F	1					○	
	SPRT/JPNA181	Health & Physical Education 1 (Aikido) 保健体育1 (種目: 合気道)	none	1	前・後 S & F						○	
	SPRT/JPNA182	Health & Physical Education 1 (Judo) 保健体育1 (種目: 柔道)	none	1	前 S						○	
	SPRT/JPNA183	Health & Physical Education 1 (Karate) 保健体育1 (種目: 空手)	none	1	後 F						○	
	SPRT/JPNA190	Health & Physical Education 1 (Shugendo) 保健体育1 (種目: 修験道)	none	1	前 S						○	
	SPRT/JPNA282	Health & Physical Education 2 (Judo) 保健体育2 (種目: 柔道)	SPRT182	1	後 F	1					○	
	SPRT/JPNA283	Health & Physical Education 2 (Karate) 保健体育2 (種目: 空手)	SPRT183	1	前 S						○	
—		小計(2科目) Subtotal: 2										
社会学・心理学 Sociology & Psychology	SOCI/JPNA160	The Anthropology of Japan 日本の人類学	none	1	後 F		3		○			
	SOCI/JPNA270	Japan: Case Studies in Society & Culture 日本: 社会と文化の事例研究	SOCI100 or SOCI/JPNA160	2	前 S		3		○			
	SOCI/PART/JPNA330	Folklore and Archeology of Yamanashi 山梨県の民話と考古学	SOCI100 or SOCI/JPNA160	3	後 F		3		○			
	SOCI/JPNA186	Workshop: Fuji Culture ワークショップ: 富士山と文化	none	1	前 S		1			○		
	PSYC100	Introduction to Psychology 心理学入門	none	1	前・後 S & F		3		○			
	PSYC201	Social Psychology 社会心理学	none	2	後 F		3		○			
	PSYC210	Cognitive Psychology 認知心理学	none	2	前 S		3		○			
	PSYC310	Cyberpsychology サイバー心理学	PSYC210	3	後 F		3		○			
PSYC350	Economic Psychology 経済心理学	PSYC200 or PSYC201	3	前 S		3		○				
—		小計(9科目) Subtotal: 9										

卒業要件及び履修方法 Graduation Requirements

【卒業要件及び履修方法】

- 卒業要件単位数: 124単位 (必修を含む)
- 卒業要件単位の修得方法: 以下に掲げる履修方法に基づいて単位を修得すること。
 - 『アカデミック英語』より必修科目を含めて15単位以上を修得する。
 - 『基幹教育』より必修科目を含めて12単位以上を修得する。
 - 『グローバルビジネス・経済学』『政治学』『人文教養』『日本研究』のうち3つの科目区分それぞれから所定の科目1科目以上を履修し、合計9単位以上を修得する。
 - 『数的推理・自然科学』より3単位以上を修得する。
 - 『保健体育』より必修科目を含めて1単位以上を修得する。
 - 『日本研究』のうち、「社会人としての日本語作文」の3単位を修得する。
- 各学生がメジャーとして選択した科目区分より、必修科目 (演習を含む。) を含めて31単位以上を修得する。なお、学生がメジャーとして選択する科目区分は、(iii)に基づいて授業科目を履修した科目区分の中から選択しなければならない。
- 事前の学修計画を策定した上で、海外大学に2学期間、留学すること。この留学期間は在学期間に算入し、留学先の海外大学で修得した単位については、それらの授業内容を個別に審査し本学部の教育趣旨に合致するものについて本学で修得したものとみなし、42単位を上限として卒業要件単位に算入する。ただし、留学先において入国制限等の措置が発動された結果、あるいは協定校が受け入れを中止した結果、海外大学への留学が困難となった場合、または、学部からの要請により留学を中止した場合、留学に係る要件を免除する。
- 第4年次において、各学生がメジャーとして選択した科目区分に開設されている「演習」を履修し、担当教員の指導を受け指定された方法に基づいて「卒業研究」を完成させ提出する。

* 外国人留学生等に対する履修方法については、以下のとおりとする。

- 英語を母語とする外国人留学生及びそれと同程度の英語運用能力を有する学生については、前項(2)の履修方法のうち、「アカデミック英語」に係る要件を免除する。なお、日本語を母語としない外国人留学生等については、「アカデミック英語」に係る要件に代えて、『日本研究』に配置されている「日本語2」までの達成を卒業要件とする。『日本研究』に配置されている日本語教育を目的とした授業科目の単位については、15単位を上限として卒業要件を充足する単位に含めることができるものとする。
- 日本語を母語としない外国人留学生については、前項(2)の履修方法のうち、「社会人としての日本語作文」に係る要件を免除する。
- 海外から本学部に留学している学生及び海外大学から転入学した学生については、前項(4)の海外留学を免除することができる。なお、学生が留学を希望した場合の取り扱い、前項(4)定めるところによる。
- 外国人留学生のうち、「アカデミック英語: A」及び「アカデミック英語: B」を履修した学生については、30単位を上限として当該授業科目の履修により修得した単位を、卒業要件を充足する単位に含めることができる。この場合においても、『日本研究』に配置されている日本語教育を目的とした授業科目の単位については、6単位を上限として卒業要件を充足する単位に含めることができるものとする。ただし、外国人留学生のうち「アカデミック英語: B」のみを履修した学生については、15単位を上限として当該授業科目により修得した単位を、卒業要件を充足する単位に含めることができる。この場合においては、『日本研究』に配置されている日本語教育を目的とした授業科目の単位について、15単位を上限として卒業要件を充足する単位に含めることができるものとする。

【履修上限】

1年生: 36単位、2年生: 42単位、3年生: 42単位、4年生: 42単位

04_(山梨学院大学)_プログラム改善 体制規則

- ・ 山梨学院大学学習・教育開発センター規程

山梨学院大学学習・教育開発センター規程

(平成27年4月1日制定)

(名称)

第1条 山梨学院大学(以下、「本学」という。)に、学習・教育開発(Learning and Education Development)センター(以下、「LEDセンター」という。)を置く。

(目的)

第2条 LEDセンターは、本学の教育目標を達成するために、科目の開発・履行管理、および、学生の学習活動と教員の教育活動の支援を行い、本学の教育改革に資することを目的とする。

(事業)

第3条 LEDセンターは、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

(1) 以下の領域に分類されるスキル系科目群・キャリア形成支援科目群について、教育課程を中心とする教育体系の開発と履行管理

(ア) ICTスキル

(イ) 言語スキル

(ウ) ヒューマンスキル

(エ) キャリア形成支援

(2) 次に掲げる学習及び教育支援事業

(ア) スチューデント・アシスタント事業の運営

(イ) ファカルティ・ディベロップメント(FD)及びスタッフ・ディベロップメント(SD)の計画と実施

イ (ウ) 学習及び教育支援に関する調査、研究(IRを用いたカリキュラム評価を含む)

(3) その他LEDセンターの目的達成にとって適当と認められる事業

(センター長)

第4条 LEDセンターに、センター長を置く。

2 センター長は、LEDセンターの事業を統括し、LEDセンターを代表する。

3 センター長は、本学の常勤教員の中から学長が第8条に規定するセンター会議の議を経て、理事会に推薦する。

4 理事会は、学長の推薦に基づきこれを任命する。

4 センター長の任期は2年とする。ただし、重任を妨げない。

6 センター長は、4月1日に就任し、3月31日をもって退任するものとする。

7 前項の規定にかかわらず、センター長が欠員となった場合に任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とすることができる。

(副センター長)

第5条 LEDセンターに、副センター長を置くことができる。

2 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときは、センター長の職務を代行する。

3 前条第3項、第4項、第5項、第6項及び第7項の規定は、副センター長について準用する。

(主任)

第6条 第3条に掲げる事業を達成するため、センター長は各科目群および学習・教育支援事業の主任を置くことができる。主任は各担当する科目領域や事業の開発・履行管理の責を負う。

(教育研究員・専門職職員)

第7条 LEDセンターに、教育研究員を置くことができる。

2 教育研究員は、センター長の命を受けて、LEDセンターの事業を推進する業務を行う。

3 LEDセンターには、専門職職員を置くことができる。

4 LEDセンターには、教育研究員または専門職職員として、IR事業担当者を置く。

(会議)

第8条 LEDセンターに、事業の計画、運営等に関する事項を審議するため、LEDセンター会議を置く。

2 教学改革の各種施策についての方針を検討し、その実行管理をおこなうため、LEDセンターにLEDセンター主任会議を置く。

(会議録)

第9条 LEDセンターにおける会議録は、センター長が指名するセンターの所属教員が作成し、センター長のほか出席した2名が署名したのち、教務部教務課がこれを保管する。

2 LEDセンター長は、学長から求められた場合は会議録の写しを提出しなければならない。

(事務)

第10条 LEDセンターに関する事務は、教務部教務課が担当する。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、大学協議会の議を経て、理事会の承認を得なければならない。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年9月20日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2019年10月9日から施行する。

附 則

この規程は、2021年4月1日から施行する。

(1) 山梨学院大学学習・教育開発センター運営委員会規程（平成28年3月2日制定）は、これを廃止する。

附 則

この規程は、2021年6月29日から施行する。

附 則

この規程は、2022年4月1日から施行する。

05_(山梨学院大学)_自己点検・評価 体制規則

- ・山梨学院教学マネジメント規程
- ・山梨学院大学カリキュラム委員会規程
- ・山梨学院大学学習・教育開発センター規程
- ・山梨学院大学自己点検・評価規程

山梨学院大学教学マネジメント規程

(2021年10月20日制定)

(目的)

第1条 この規程は、山梨学院大学教学企画室規程第3条第2項に基づき、教学マネジメントの履行のため、必要な事項を定めることを目的とする。

(教学マネジメント)

第2条 教学マネジメントとは、以下を対象の事項とする。

- (1) 大学における中期計画、目的及び使命、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを通じた学修目標の具体化
- (2) 大学における教育課程および教育活動のアセスメント
- (3) 教育効果および学修成果の把握と可視化
- (4) 教学マネジメントの基盤としての教員と職員の研修および教学IR体制の確立
- (5) 教育活動に関する情報の公表に関すること
- (6) その他教学に関する必要な事項の実施

(報告)

第3条 教育活動に関するアセスメントは、教育組織単位で行い、カリキュラム委員会にてアセスメント報告書として集約する。

2 前項によりカリキュラム委員会で集約したアセスメント報告書は、全学アセスメント事項を含め、教学マネジメント報告書案として教学企画室で作成する。

(決定)

第4条 教学マネジメント報告書は、大学協議会の議を経て、学長が決定する。

(規程の改廃)

第5条 この規程の改廃は、大学協議会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、2021年10月20日から施行する。

附 則

この規程は、2022年4月1日から施行する。

山梨学院大学カリキュラム委員会規程

(2019年11月13日制定)

(目的)

第1条 山梨学院大学(以下、「本学」という。)の中期計画および目的及び使命、並びにディプロマ・ポリシー(以下、DP)に基づき、各学部および教学センターが教育プログラムを設置し提供するため、並びにそれらの教育活動に関するアセスメント事業を推進するため、本学にカリキュラム委員会を置く。

(審議)

第2条 本委員会は、次の各号に掲げる事項について審議することを目的とする。

- (1) 学部における教育課程案を作成すること
- (2) 学部および教学センターが提供する科目区群の連携及び連絡調整に関すること
- (3) 学部および教学センターが提供する科目群および教育活動に対するアセスメント事業(IR情報を用いたカリキュラムおよび教育活動の評価を含む)
- (4) その他学士課程のカリキュラムに関すること
- (5)

(組織)

第3条 本委員会の構成は、次のとおりとする。

- (1) 委員長
- (2) 副委員長
- (3) 委員
- (4) その他学長が必要と認めた者

(委嘱)

第4条 本委員会の委員長及び委員は、学長が委嘱する。

2 委員の委嘱された者は、各学部・学科および教学センターにおけるカリキュラム主任を兼務する。

(任期)

第5条 本委員会の委員長及び委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(会議)

第6条 委員長は、本委員会を招集して、その会議の議長となる。

2 委員長に事故あるときは、副委員長又は委員長が予め指定した委員が議長の職務を代行する。

3 委員長は、会議に委員以外の教職員の出席を求めることができる。

4 第2条に定める本委員会の審議を促進するため、委員会に学部及びセンターの代表者による学部・センター代表者ワーキング会議を置く。

(管理運営)

第7条 本委員会の事業の実施に係る全学的な事務は、教務部教務課が担当する。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、大学協議会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、2020年1月1日から施行する。

- (1) 山梨学院大学教務委員会規程(平成28年4月20日制定)はこれを廃止する。

附 則

この規程は、2021年6月16日から施行する。

附 則

この規程は、2022年4月1日から施行する。

山梨学院大学学習・教育開発センター規程

(平成27年4月1日制定)

(名称)

第1条 山梨学院大学(以下、「本学」という。)に、学習・教育開発(Learning and Education Development)センター(以下、「LEDセンター」という。)を置く。

(目的)

第2条 LEDセンターは、本学の教育目標を達成するために、科目の開発・履行管理、および、学生の学習活動と教員の教育活動の支援を行い、本学の教育改革に資することを目的とする。

(事業)

第3条 LEDセンターは、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

(1) 以下の領域に分類されるスキル系科目群・キャリア形成支援科目群について、教育課程を中心とする教育体系の開発と履行管理

(ア) ICTスキル

(イ) 言語スキル

(ウ) ヒューマンスキル

(エ) キャリア形成支援

(2) 次に掲げる学習及び教育支援事業

(ア) スチューデント・アシスタント事業の運営

(イ) ファカルティ・ディベロップメント(FD)及びスタッフ・ディベロップメント(SD)の計画と実施

イ (ウ) 学習及び教育支援に関する調査、研究(IRを用いたカリキュラム評価を含む)

(3) その他LEDセンターの目的達成にとって適当と認められる事業

(センター長)

第4条 LEDセンターに、センター長を置く。

2 センター長は、LEDセンターの事業を統括し、LEDセンターを代表する。

3 センター長は、本学の常勤教員の中から学長が第8条に規定するセンター会議の議を経て、理事会に推薦する。

4 理事会は、学長の推薦に基づきこれを任命する。

4 センター長の任期は2年とする。ただし、重任を妨げない。

6 センター長は、4月1日に就任し、3月31日をもって退任するものとする。

7 前項の規定にかかわらず、センター長が欠員となった場合に任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とすることができる。

(副センター長)

第5条 LEDセンターに、副センター長を置くことができる。

2 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときは、センター長の職務を代行する。

3 前条第3項、第4項、第5項、第6項及び第7項の規定は、副センター長について準用する。

(主任)

第6条 第3条に掲げる事業を達成するため、センター長は各科目群および学習・教育支援事業の主任を置くことができる。主任は各担当する科目領域や事業の開発・履行管理の責を負う。

(教育研究員・専門職職員)

第7条 LEDセンターに、教育研究員を置くことができる。

2 教育研究員は、センター長の命を受けて、LEDセンターの事業を推進する業務を行う。

3 LEDセンターには、専門職職員を置くことができる。

4 LEDセンターには、教育研究員または専門職職員として、IR事業担当者を置く。

(会議)

第8条 LEDセンターに、事業の計画、運営等に関する事項を審議するため、LEDセンター会議を置く。

2 教学改革の各種施策についての方針を検討し、その実行管理をおこなうため、LEDセンターにLEDセンター主任会議を置く。

(会議録)

第9条 LEDセンターにおける会議録は、センター長が指名するセンターの所属教員が作成し、センター長のほか出席した2名が署名したのち、教務部教務課がこれを保管する。

2 LEDセンター長は、学長から求められた場合は会議録の写しを提出しなければならない。

(事務)

第10条 LEDセンターに関する事務は、教務部教務課が担当する。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、大学協議会の議を経て、理事会の承認を得なければならない。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年9月20日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2019年10月9日から施行する。

附 則

この規程は、2021年4月1日から施行する。

(1) 山梨学院大学学習・教育開発センター運営委員会規程（平成28年3月2日制定）は、これを廃止する。

附 則

この規程は、2021年6月29日から施行する。

附 則

この規程は、2022年4月1日から施行する。

山梨学院大学自己点検・評価規程

(平成5年11月1日制定)

(趣旨)

第1条 本大学は、その教育研究水準の向上を図り、本大学の目的及び社会的使命を果たすために、山梨学院大学学則第2条の2及び山梨学院大学大学院学則第2条に基づき、本大学の教育研究活動等の状況について、内部質保証の観点から点検及び評価を行う。

2 学校教育法第109条に基づき、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者（以下、「認証評価機関」という。）による評価（以下、「認証評価」という。）を受けるにあたっては、第1項に定める自己点検・評価の報告を充てる。

(評価委員会)

第2条 本大学に自己点検・評価委員会（以下、「評価委員会」という。）を置く。

2 評価委員会は、第8条に規定する自己点検・評価の実施を統括する。

3 評価委員会は、第9条第2項に規定する報告を統括し、本大学の自己点検・評価として取りまとめる。

4 評価委員会は、認証評価機関による認証評価に関することを統括する。

5 評価委員会は、相互評価を実施する場合には、これを統括する。

6 評価委員会は、外部からの評価についても、これを統括する。

(組織)

第3条 評価委員会は、学長の委嘱により、次の委員をもって組織する。

(1) 副学長

(2) 第8条に規定する各所属の長

(3) その他、学長が必要と認めた者

(委員の任期)

第4条 評価委員会の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長及び副委員長)

第5条 評価委員会に委員長を置き、副学長のうち1名から学長が委嘱する。

2 評価委員会は委員長が招集し、その議長となる。

3 評価委員会に副委員長を置くことができる。

4 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代行する。

(委員会の議決)

第6条 評価委員会は、委員の3分の2以上の出席を要し、出席委員の過半数をもって決する。可否同数のときは、議長の決するところによる。

(評価結果の報告及び公表)

第7条 評価委員会は、大学全体としての自己点検・評価結果を報告書としてまとめるものとする。

2 自己点検・評価報告書については、本大学ホームページへの掲載等により公表する。

(各所属の点検・評価体制)

第8条 自己点検・評価については、教育研究組織、及び事務組織の区分（以下、「各所属」という。）に基づいて行う。

2 各所属の自己点検・評価に関する事務は、当該所属において担当する。

(点検・評価の取りまとめ)

第9条 自己点検・評価は、第10条に規定する項目等に従って、第8条に規定する実施区分ごとにその所轄事項について実施する。

2 各所属は、点検・評価の実施状況について、毎年、評価委員会に報告する。

3 評価委員会は、前項に定める報告に基づき、必要に応じて各所属に作業等の指示をおこない、本大学の自己点検・評価として取りまとめる。

(点検・評価項目)

第10条 自己点検・評価の項目は、認証評価を受けようとする認証評価機関が定めるものとする。

(点検・評価結果の活用)

第11条 各所属は、自己点検・評価結果、及び、認証評価機関による評価結果、並びに、外部からの評価結果、学生からの直接的な意見聴取の結果をふまえ、教育研究活動等の状況の改善に努めるものとする。

(事務)

第12条 評価委員会に関する事務は、教務部教務課が担当する。

(規程の改廃)

第13条 この規程の改廃は、大学協議会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、平成5年11月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成6年4月20日から施行する。

附 則

この規程は、平成7年5月18日から施行する。

附 則

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年5月26日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月18日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年9月19日から施行する。

附 則

この規程は、2019年10月9日から施行する。

附 則

この規程は、2021年4月1日から施行する。

(1) 山梨学院大学自己点検・評価実施委員会規程（平成19年4月18日制定）は、これを廃止する。

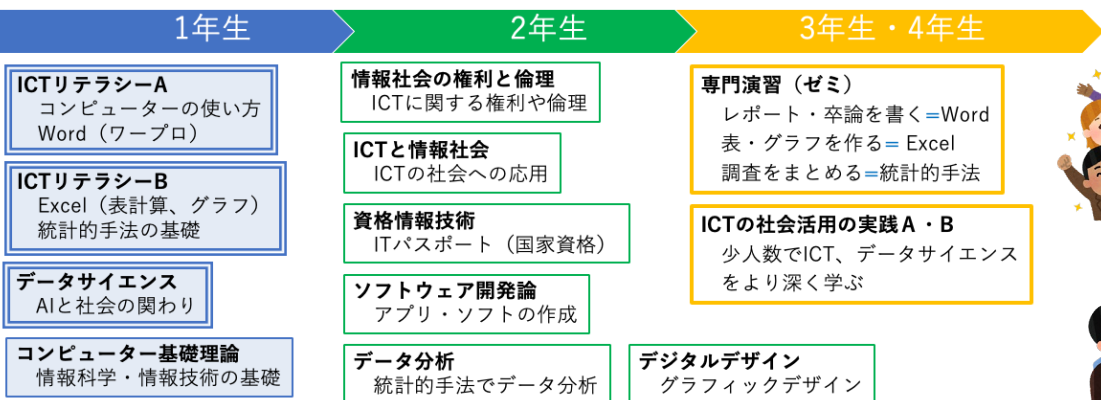
(2) 山梨学院大学自己点検・評価規程細則（平成19年4月18日制定）は、これを廃止する。

06_(山梨学院大学)_取組概要

ICTスキルとデータサイエンス修得プログラム

本教育プログラムを修了すると身につくこと

必修科目を学ぶことで、**ICTスキル**と**データサイエンス**が同時に身につきます。本教育プログラムを終了すると学生生活に必要な文書作成、表計算などのICTスキルが身につきます。ICTスキルは、卒業後も、職場ではもちろんのこと、社会の様々な場面で活用できます。また、データサイエンスを学ぶことで、**ビッグデータ**や**AI**とともに生活する現代社会において、**知らないことによる様々なリスクを回避し、活用することに興味を持つ**ことができます。そして、社会でデータサイエンスを活用するための基礎的な能力が身につきます。



2重枠が本教育プログラムに係る科目。他はプログラム修了者向けの周辺科目。

モデルカリキュラム 「導入」、「基礎」、「心得」の内容を全て含むように本教育プログラムは編成されています。

導入	1. 社会におけるデータ・AI利活用	
	1-1. 社会で起きている変化	1-2. 社会で活用されているデータ
	1-3. データ・AIの活用領域	1-4. データ・AI利活用のための技術
基礎	2. データリテラシー	
	2-1. データを読む	2-2. データを説明する
	2-3. データを扱う	
心得	3. データ・AI利活用における留意事項	
	3-1. データ・AIを扱う上での留意事項	3-2. データを守る上での留意事項

プログラムの特徴

1. 大学の教育理念に基づいたプログラム設計

山梨学院大学では2021年度に教育理念を更新しています。本教育プログラムはその教育理念に沿うように教育内容、授業運営が設計されています。



山梨学院大学の教育理念

山梨学院大学は広い**国際的視野**を持ち**実践的な知識と技能**を備え創造力と行動力を発揮して理想の未来を創る人材を育成する (教学構想2021)

国際的視野 (多様性への理解)

山梨学院大学の学生は、一般学生、スポーツアスリート学生、留学生など多様な学生から構成されています。学生が大学で学ぶ目的も多様です。本教育プログラムの**グループ学習**では、こうした学生が協力して学習し、お互いの考えを認め合って、**多様性**への理解を身につけます。

実践的な知識と技能

本教育プログラムでは、本学が社会科学系の学部を中心に構成されていることを考慮して、図表を多用して数式は必要最小限に絞り、授業内容を設計しています。また、各学部の学生の興味に応じた**実践的な知識と技能**を身につける時間を設けています。

2023年度からは、こうした内容を盛り込んで本学教員が滋賀大学データサイエンス学部と**共同執筆した教科書**を採用しています。

2. グループ学習を重視する

活用事例のグループ学習を通して、数理・データサイエンス・AIを**学ぶことの楽しさ**を体験し**将来に渡って学ぶ力**を身につけます。

3. 授業運営方法・成績評価の共通化

「ICTリテラシーA」, 「ICTリテラシーB」は6名、「データサイエンス」は4名で担当しています。それぞれの科目で以下の工夫をしています。

- ・ **同一シラバス**、**同一運営方法**で授業を行っています
- ・ 成績評価のための基準が**統一**され厳格化されています

4. 山梨県内の大学と連携

山梨大学が中心とり活動している山梨県内の大学の「数理・データサイエンス・AI教育連携にかかる**授業設計研究会**」に参加しています。

07_(山梨学院大学)_その他補足資料

2023年度の授業で使用してしたスライドの一部

- 授業で扱うキーワード

「データサイエンス」の授業では、第1回目～第10回目に右図のスライドを学生に提示して説明しています。

授業で扱うキーワード

ビッグデータ	フェイクニュース	離散データ	分散	予測値	標本
IoT	ディープフェイク	順序尺度	標準偏差	切片	重回帰分析/単回帰分析
第4次産業革命	バイアス	名義尺度	散布図	傾き	主成分分析
ソサエティー5.0	e-Stat	ヒストグラム	外れ値	散らばり	特徴量
データサイエンス	RESAS	度数・頻度	相関係数	決定係数	ニューラルネットワーク
データ駆動型社会	データクレンジング	中央値	正の相関・負の相関・無相関	因果関係	深層学習(ディープラーニング)
個人情報	量的データ	四分位範囲	回帰直線	疑似相関	機械学習
匿名加工情報	質的データ	代表値	説明変数	第3の変数	AI
著作物	比例尺度	平均値	目的変数	潜在変数	過学習
オープンデータ	間隔尺度	最頻値	被説明変数	母集団	汎用型AI/特化型AI